ホンダ マイティ11（イレブン）

RT1100

取扱説明書



お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたRT1100をご使用になる前に、
必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

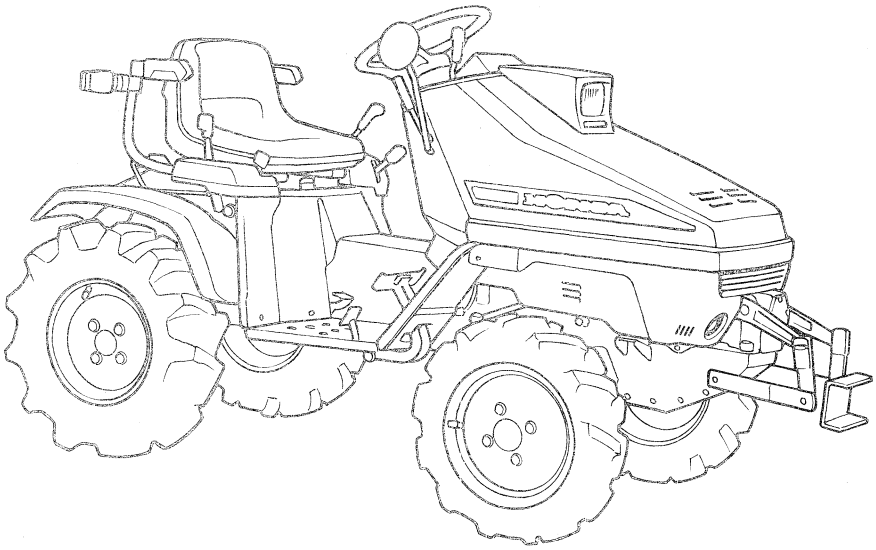
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**または整備手帳巻末のホンダ汎用営業所にお気軽にお申しつけください。

はじめに

このたびは本製品をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
よくお読みいただき、充分理解してからご使用ください。またいつまでもすぐれた性能を発揮できるよう、取扱説明書を日常の手引きとしてご活用ください。

なおこの取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。



≪Pタイプ≫

安全に作業していただくため、さらに正しい取扱いをしていただくために取扱説明書で(注意)マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

更に、安全に関するポイントを記載した「安全のしおり」を別冊にて添付しておりますのでよくお読みいただいて、必ず守ってください。

目　　次

サービスと保証について …… 4
小型特殊自動車について …… 5
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 6
スイッチとメータ パネルについて …… 8
1．エンジン スイッチ …… 8
2．警報ブザー …… 8
3．燃料計 …… 9
4．方向指示器表示灯 …… 9
5．駐車ブレーキ表示灯 …… 9
6．充電警告灯 …… 9
7．エンジン オイル警告灯 …… 10
8．前照灯上向き表示灯 …… 10
9．方向指示器スイッチ …… 10
10．前照灯スイッチ …… 10
11．警音器(ホーン)スイッチ …… 10
運転装置について …… 11
1．エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル …… 11
2．フロントP.T.Oレバー(P、PRタイプのみ) …… 12
3．バック ミラー …… 12
4．駐車ブレーキ レバー …… 12
5．ブレーキ ペダル …… 13
6．デフロック ペダル …… 13
7．P.T.O軸カバー …… 14
8．P.T.O軸変速レバー …… 14
9．主変速レバー、副変速レバー …… 15
10．クラッチ ペダル …… 15
11．チョーク ノブ …… 16
12．ハンドル …… 16
ハンドル操作時の注意 …… 17
作業機昇降装置について …… 18
1．油圧切換レバー(K、KRタイプを除く) …… 18
2．リフト レバー …… 18
3．下降速度調整ノブ …… 19
運転する前に点検しましょう …… 20
ボンネットの開けかた、閉めかた …… 20
エンジル オイルの点検 …… 20
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 21

バッテリ液の点検 ……21
クラッチ ペダル遊びの点検……22
ガソリンの点検 ……22
タイヤの空気圧、締付けナットの点検 ……23
ブレーキ ペダル遊び、摩耗限界マークの点検……23
駐車ブレーキの点検 ……24
ハンドルの遊び、ガタの点検 ……24
油圧系オイルの点検 ……24
シートの位置調整 ……25
電装品の点検 ……25
冷却フィン、シュラウドの点検 ……25
空気取入れ口の点検 ……25
運転のしかた ……26
エンジンのかけかた ……26
発進、走行のしかた ……27
旋回のしかた ……29
坂道での運転のしかた ……30
圃場への出入り時の注意 ……31
公道走行時の注意 ……32
停車、エンジン停止のしかた ……33
運搬、保管のしかた ……34
定期手入れを行ないましょう……37
定期点検表 ……38
やさしい点検、整備 ……39
エンジン オイルの交換……39
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃……39
点火プラグの清掃、調整 ……40
バッテリ液量、端子の点検 ……41
ブレーキ ペダルの調整……41
燃料ろ過カップの清掃 ……42
変速機オイルの点検 ……42
各部のゆるみ点検、増締め、各部の給油およびグリス塗布 ……43
故障のときは ……44
主要諸元……46
配線図……48
ロータリの取扱い説明 ……49

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

小 型 特 殊 自 動 車 に つ い て

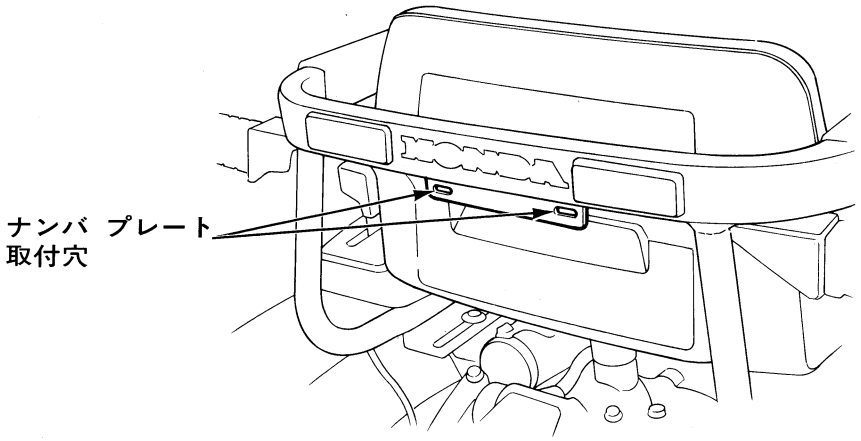
この製品は、道路運送車両法により小型特殊自動車として、運輸大臣の型式認定の認可を受けております。

●小型特殊自動車の届出とナンバ プレートの取付けについて

新たに小型特殊自動車の所有者となられた方は、市町村税条例により、市町村役場に届出、ナンバ プレートの交付を受けなければなりません。(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店へお申しつけください。)

1.小型特殊自動車取得の証明書に軽自動車税を添えて市町村役所に届出てください。届出が済むとナンバ プレートが交付されます。

2.ナンバ プレートをナンバ プレート取付穴に取付けてください。



●運転免許について

公道走行時は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必らず携帯してください。

●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

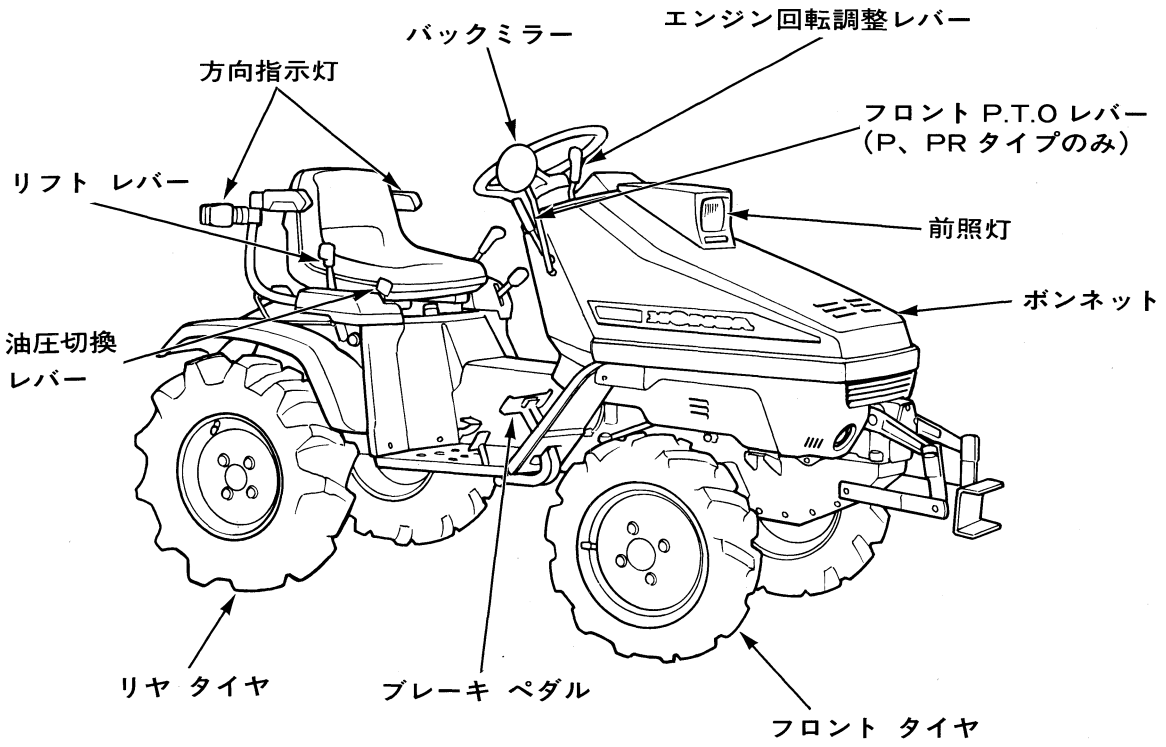
●小型特殊自動車とは

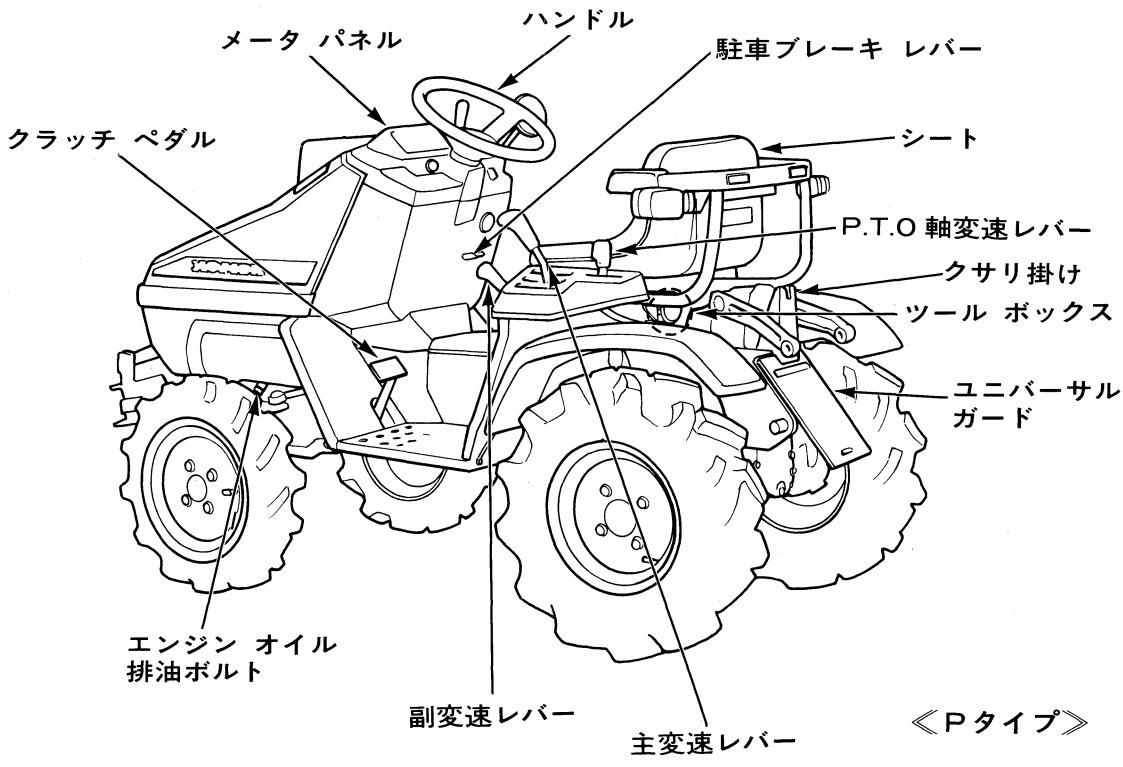
農耕作業用自動車の場合、車体の全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2m以下、最高速度15km/H以下、原動機の総排気量1500cc以下の構造を有する物であり、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意してください。

1.認定を受けたエンジン以外は搭載して運行するようなことはできません。

2.認定時の構造を変更した状態では運行することはできません。

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう。





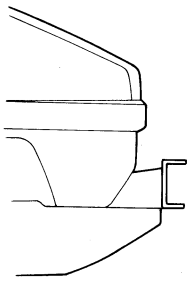
≪Pタイプ≫

本機には、下記のタイプがあります。

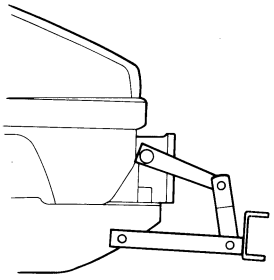
お手元の製品のタイプを確認のうえ、正しい取り扱いをお願いします。

仕様 / タイプ	フロント			ロータリ
	固定ヒッチ	油圧リフト	P.T.O	
K	●			
KR	●			●
L		●		
LR		●		●
P		●	●	
PR		●	●	●

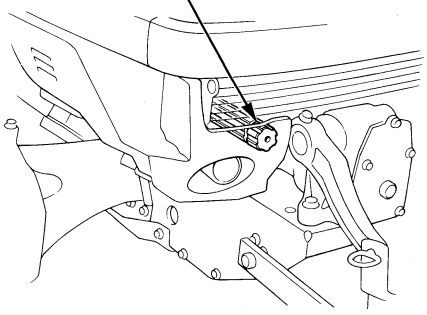
固定ヒッチ



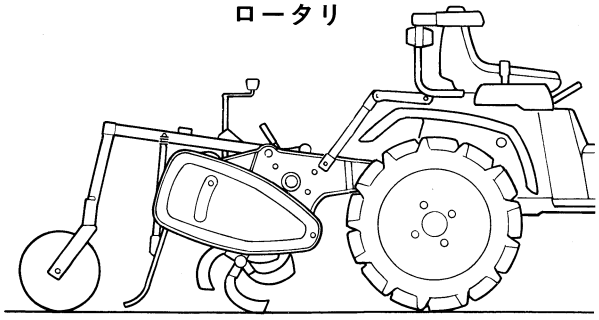
油圧リフト



P.T.O

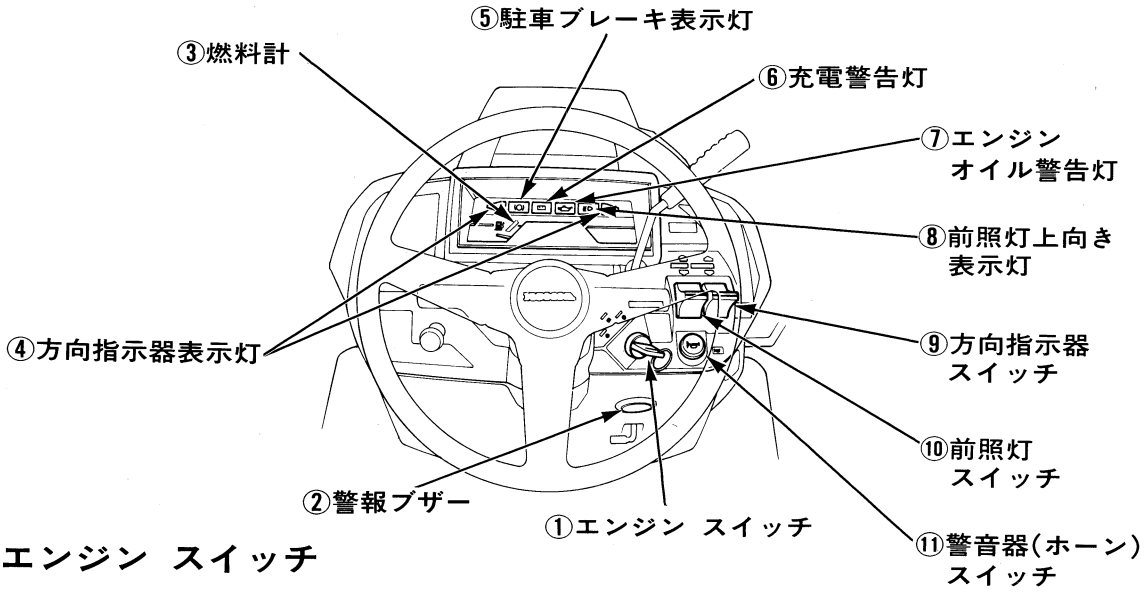


ロータリ



本文中のイラストはPタイプをベースに記載してあります。

スイッチとメータ パネルについて



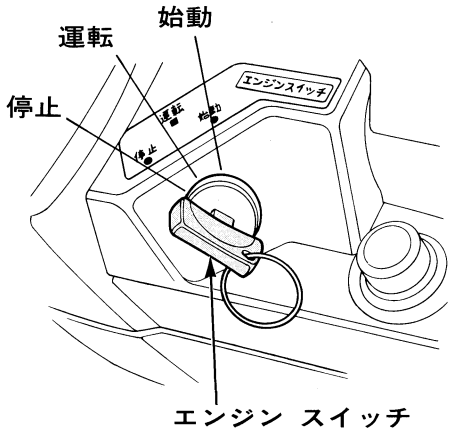
1.エンジン スイッチ

エンジンを〝始動〟、〝運転〟、〝停止〟するために使用します。

始動―エンジンを始動させるときこの位置まで回わします。

運転―エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

停止―エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り位置)

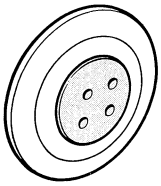


注意

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないと(フロント、P.T.Oレバー付P、PRタイプは〝切〟にしないと)セルモータは回転しない構造になっています。

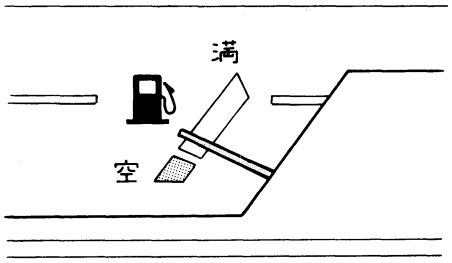
2.警報ブザー

走行中の駐車ブレーキ戻し忘れ防止のために付いています。



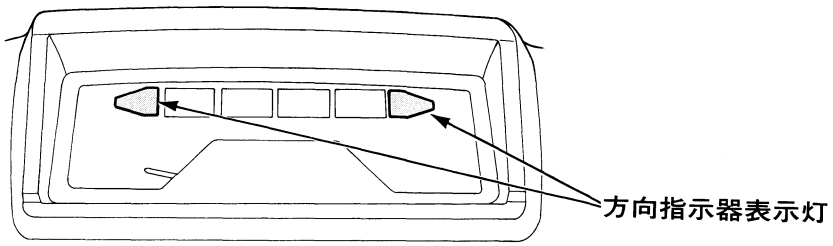
3.燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を表示します。



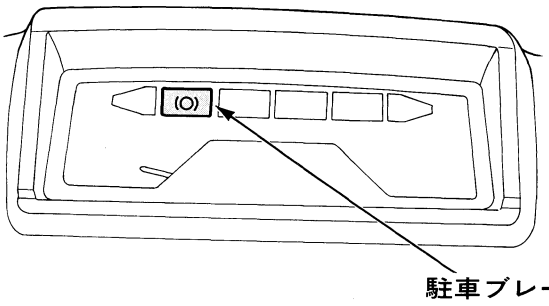
4.方向指示器表示灯

方向指示器スイッチを操作すると点滅します。



5.駐車ブレーキ表示灯

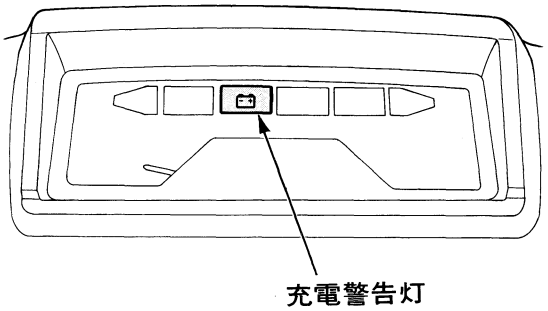
駐車ブレーキをロック(駐車状態)すると、ランプが点灯します。



6.充電警告灯

エンジン運転中、充電系統に異常が発生した場合ランプが点灯します。

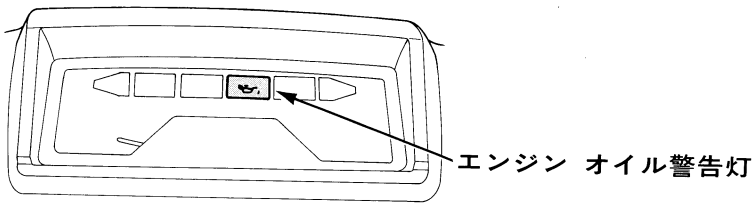
エンジン停止中、エンジン スイッチを〝運転〟にすると点灯し、始動すると消灯します。



7.エンジン オイル警告灯

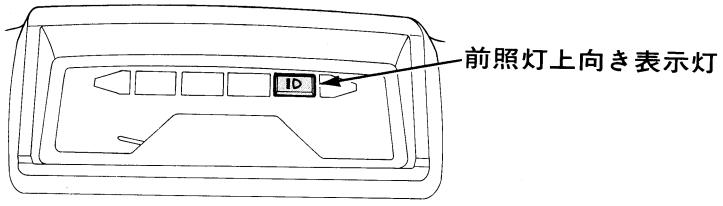
エンジン オイルが不足しているとランプが点灯します。

エンジン停止中エンジン スイッチを〝運転〟にすると点灯し、〝始動〟にすると消灯します(オイル量正常時)。



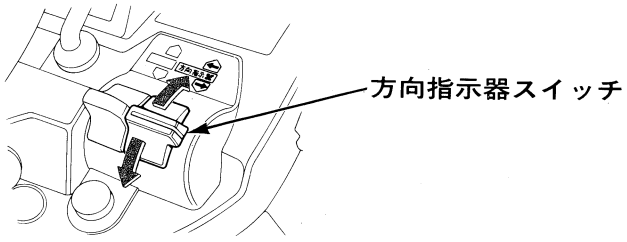
8.前照灯上向き表示灯

前照灯スイッチを上向き側に操作するとランプが点灯します。



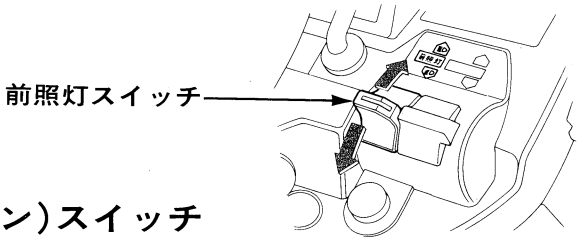
9.方向指示器スイッチ

スイッチを上げると左側、下げると右側のランプが点滅します。



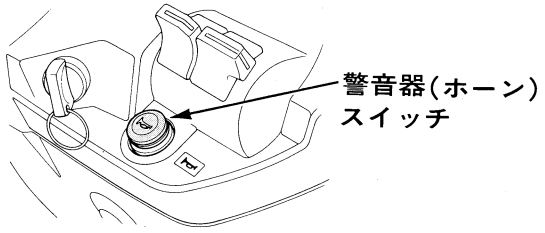
10.前照灯スイッチ

スイッチを上げると上向き、下げると下向きに前照灯が点灯します。

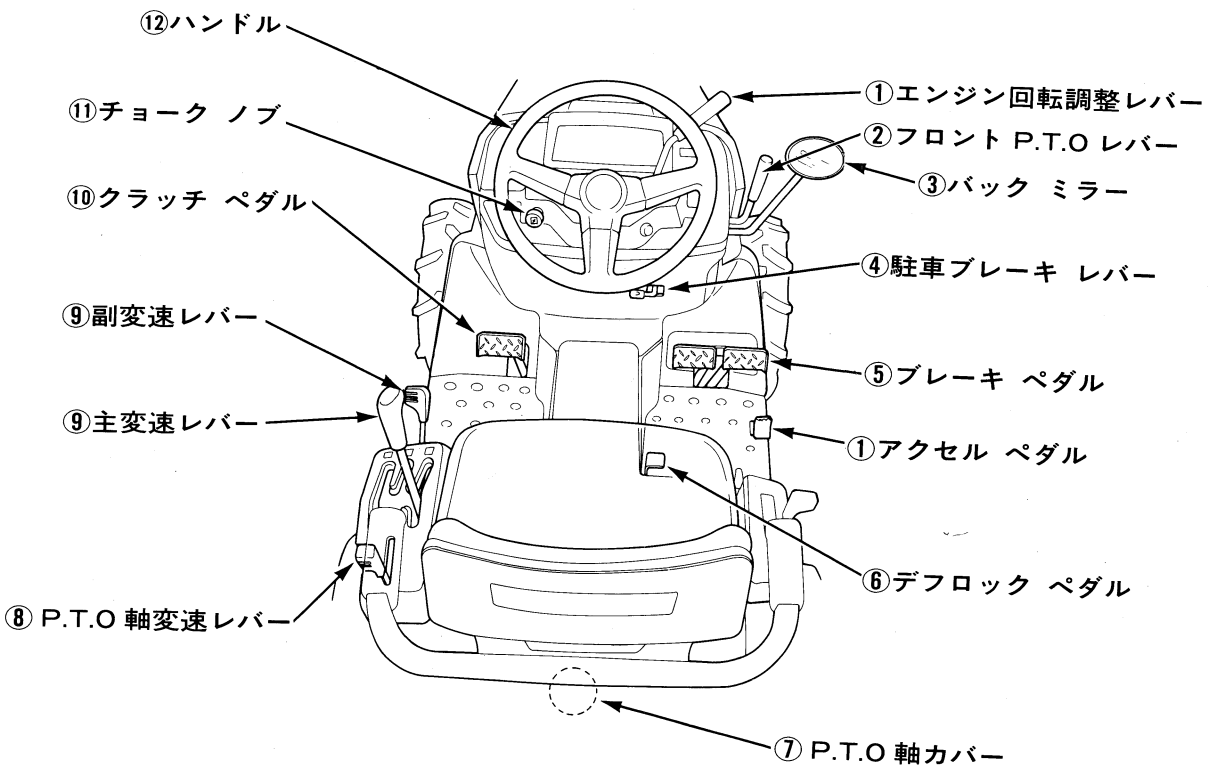


11.警音器(ホーン)スイッチ

スイッチを押すと警音器(ホーン)が鳴ります。



運転装置について

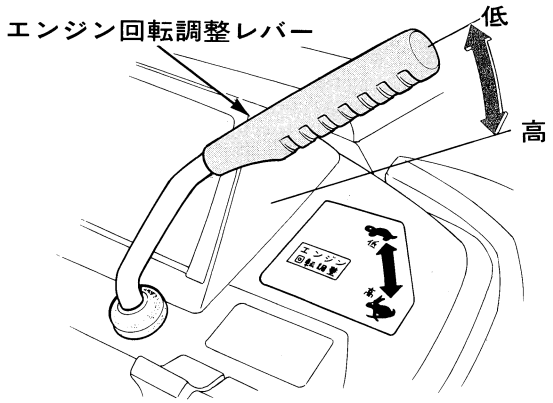


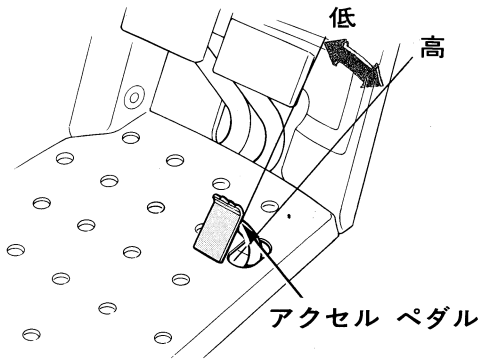
1.エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル

○エンジン回転調整レバー……主に農作業時に使用します。
（任意の位置で固定できます。）

○アクセル ペダル……主に道路走行時に使用します。

注意　・道路走行または移動時には、エンジン回転調整レバーは使用しないでください。



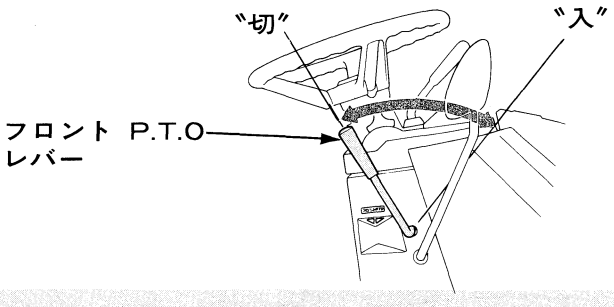


2.フロントP.T.Oレバー(P、PRタイプのみ)

フロントの動力取り出し軸(P.T.O)を駆動、停止させるものです。

レバー位置〝入〟……P.T.O軸が回転します。

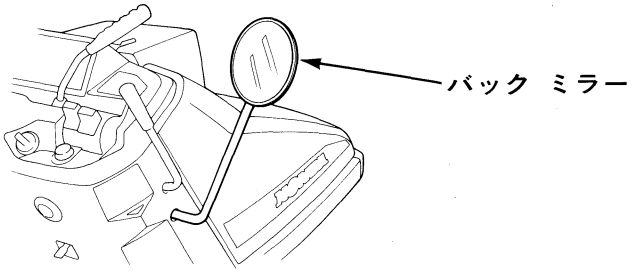
レバー位置〝切〟……　〃　停止します。



注意　・始動するときは、フロントP.T.Oレバーを〝切〟の位置にしないとセルモータは回転しない構造になっています。

3.バック ミラー

後方視界が十分確認できる位置に調整してください。



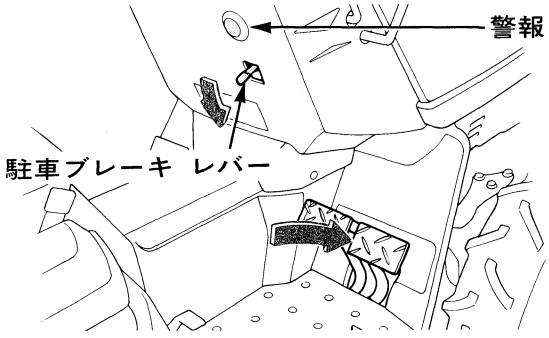
4.駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

1.ブレーキ ペダル(左右連結状態)を強く踏み込みます。

2.1のままで駐車ブレーキ レバーを押し下げます。

3.2のままでブレーキ ペダルを離せばロック(駐車)します。解除するときはブレーキペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。



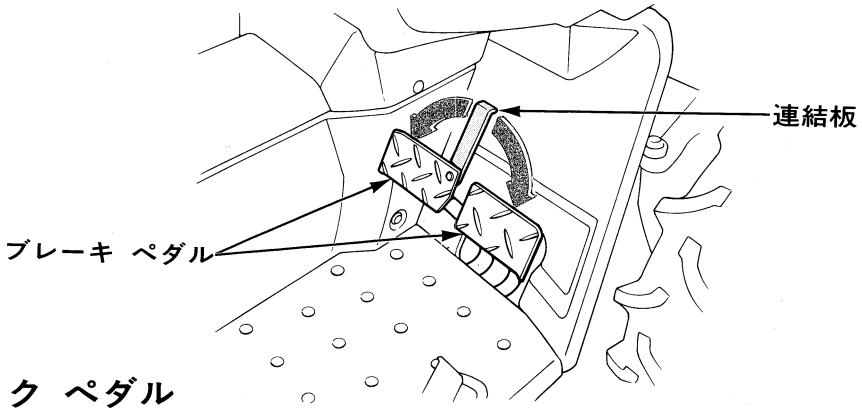
●警報ブザーは、走行中の駐車ブレーキの戻し忘れ防止のためについています。

5.ブレーキ ペダル

本機を停止させる時に使用します。自動車と異なりブレーキを後輪の片輪だけにかけることもできます。

連結板をセット(連結)した時……道路走行時

連結板を外した時……農作業時



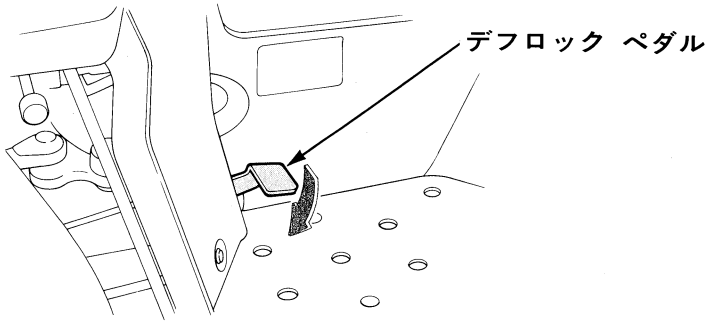
6.デフロック ペダル

左右の後輪を同じ回転速度で駆動させる装置です。

スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏むと……左右の後輪が同じ回転で駆動されます。

ペダルを離すと……デフロックが解除されます。



デフロックの使い方

デフロックは上手に使うと非常に便利ですが、使用方法を誤まると転倒などの危険や故障の原因ともなりますので注意してください。

車輪がスリップしやすいような地面で後輪の片輪のみがスリップする場合や畦越えに使用してください。

使用上の注意

○デフロックを入れる時(ペダルを踏む)は、エンジン回転を下げてから行なってください。

○デフロックを入れている時は絶対に旋回しないでください。

○旋回中は絶対にデフロックを使用しないでください。

○高速走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。

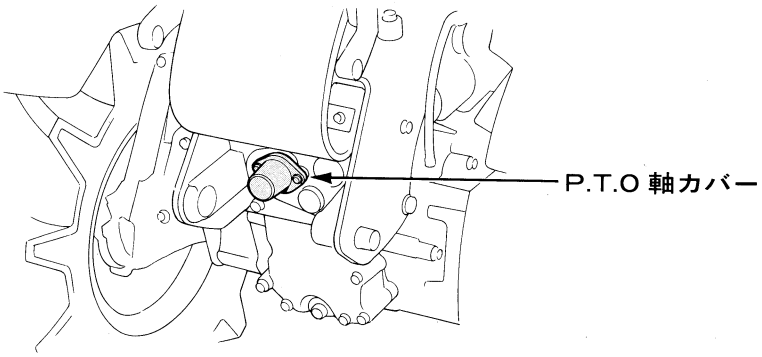
○路上走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。

○デフロックを使わないときは足をペダルに乗せないでください。

上記項目は必ずお守りください。非常に危険であり故障の原因となります。

7.P.T.O軸カバー

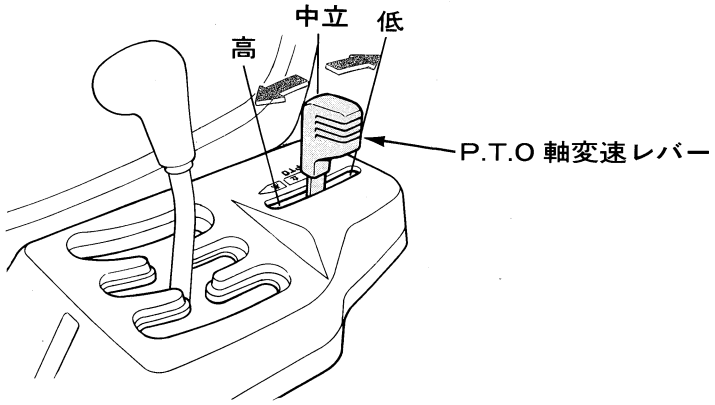
P.T.O軸を使用しないときは、グリースを塗布後必ずカバーを取付けてください。



8.P.T.O軸変速レバー

P.T.O(リヤ、動力取り出し軸)の回転速度を2段階に変速できます。

注意　・変速を行なうときは、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行なってください。

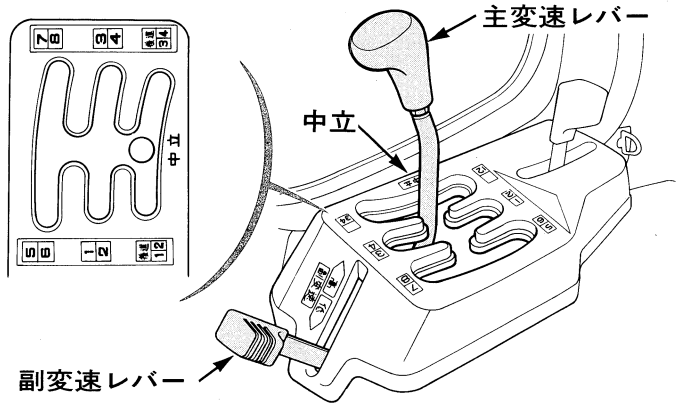


9.主変速レバー、副変速レバー

主変速レバー、副変速レバーを操作することにより前進８段、後進４段の変速ができます。

注意

・変速レバーを操作するときは、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行なってください。



10.クラッチ ペダル

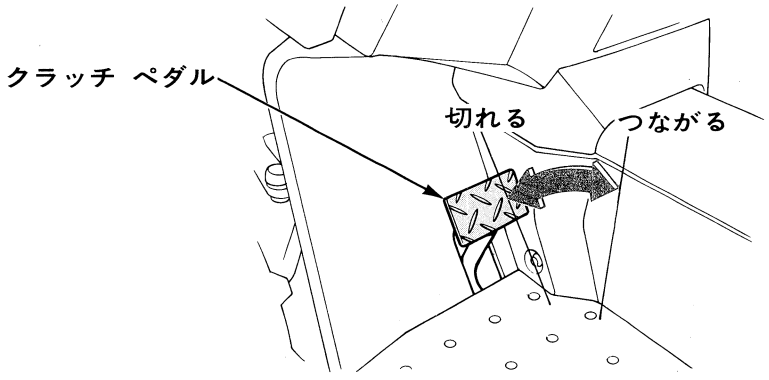
エンジンの動力を走行装置、リヤP.T.O軸に断続させるペダルです。

ペダルを踏み込むと……クラッチが切れます。

ペダルを離すと……クラッチがつながります。

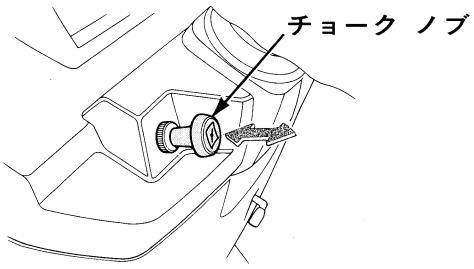
注意

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。



11.チョーク ノブ

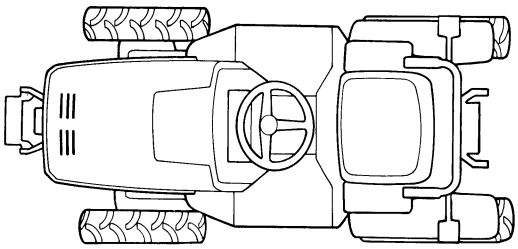
エンジンが冷えているとき、またはエンジンがかかりにくいときに操作します。



12.ハンドル

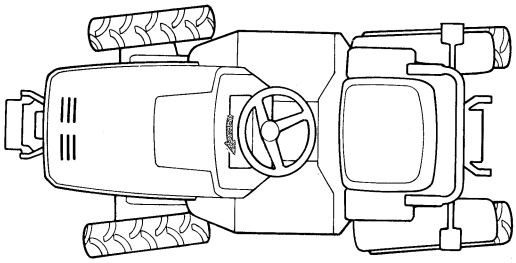
本機には 4 輪操舵機構が付いています。（ハンドル各操舵の状態）

●ハンドル中立時。



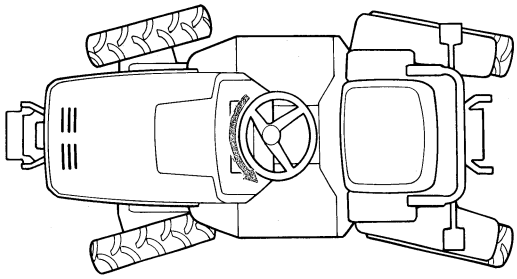
●ハンドル左小角度転舵時。

後輪が前輪と同相側に微小角度左へきれます。



●ハンドルを左へ大きく転舵時。

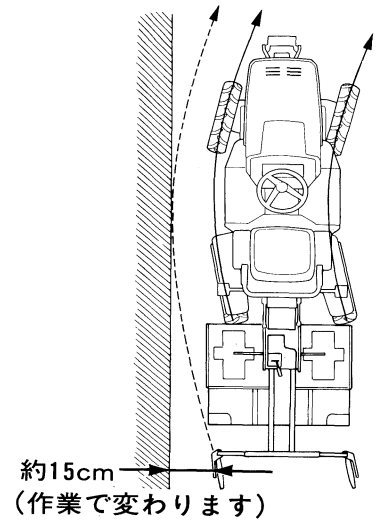
後輪は、前輪と逆相側に最大転舵角度まで右へきれます。



ハンドル操作時の注意

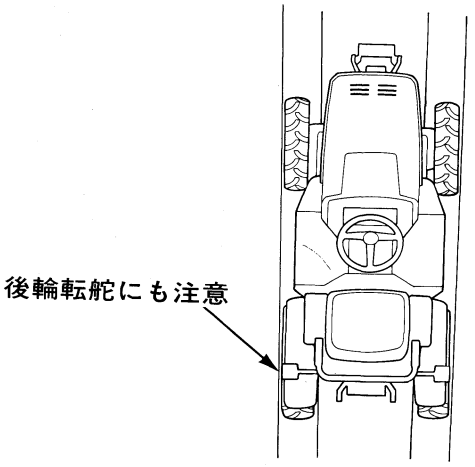
1.壁ぎわでの旋回

本機は4WS特有の小回りをしますが、後部作業機後端は相対的に前輪外側よりも少し（作業機で変わりますが15cm位）大まわりしますので、壁ぎわでの旋回時は注意して下さい。

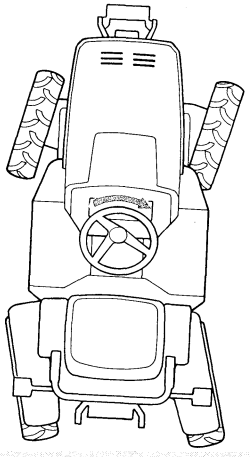


2.アユミ板の使用

アユミ板の使用は2WSと同じく直進が原則です。大きなハンドル操作時は前輪だけでなく後輪も転舵されますので十分注意して下さい。



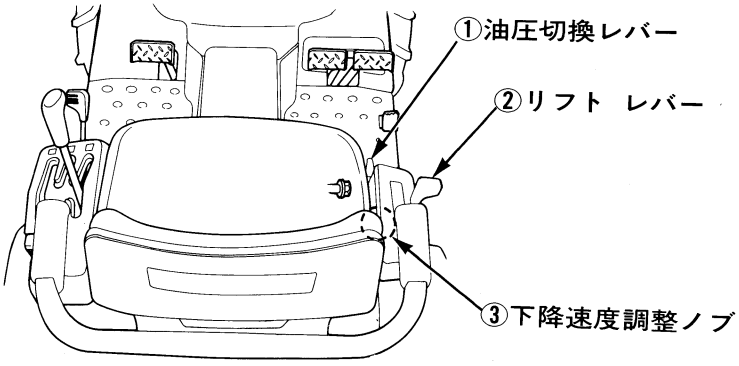
3.〝ハンドルを切っての発進〟は特に低速で滑かに行って下さい。ハンドルを切った状態で前輪が浮く様な急発進をすると、ハンドルを切った方向へ本機が進まず、危険なことがありますから絶対に避けて下さい。



注意　旋回時には特にスピードを落としてハンドル操作を行なって下さい。

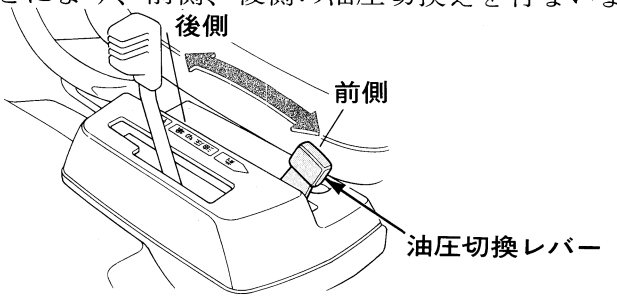
作業機昇降装置について

油圧装置はエンジン回転中、レバーを操作すると、クラッチの断続に関係なく作動します。



1.油圧切換レバー（K、KRタイプを除く）

レバーを操作することにより、前側、後側の油圧切換えを行ないます。



注意

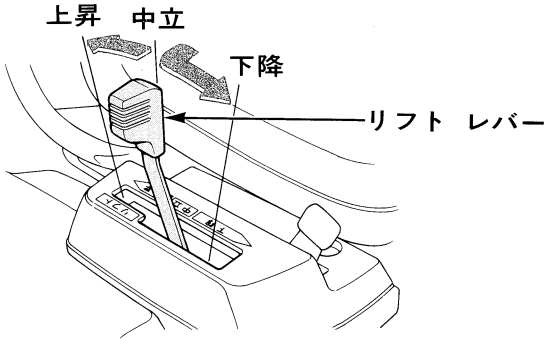
・油圧切換レバーがストッパまで確実に切換えられていることを確認してください。途中の位置では機能を満足しないことがあります。

2.リフト　レバー

・レバーを操作することにより作業機の〝上昇〟、〝下降〟ができます。

・エンジンが停止状態でも、リフト　レバーを〝下降〟にすると作業機が下降します。

・リフト　レバー　ガイド溝部には２モーション　レバー　ガイド　プレートが取付けてあります。リフト　レバーを下降にするには、〝中立〟位置から一旦右へ押し付けながら前方へレバーを倒します。〝下降〟から〝中立〟への戻しは手前に引くだけでできます。



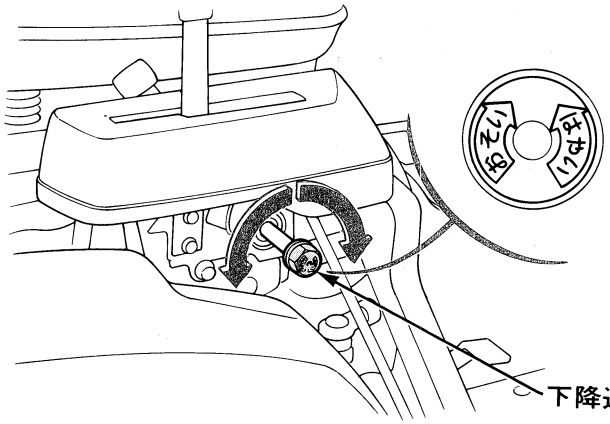
3.下降速度調整ノブ

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます。（上昇速度は調整できません）。

〝おそい〃（右方向）に回わすと……下降速度が遅くなります。

〝はやい〃（左方向）に回わすと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回わすと……下降しなくなります。（点検、調整時使用します）



注意

- 調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- 下降速度は作業機の重量によってかわります。
- 作業機の下降速度は、最上位位置から接地するまで２～３秒が適当です。
- 調整ノブは一気にゆるめないでください。¼回転ごとに確認してください。
- 調整ノブが手で回らないときは、同梱のプラグ レンチを使って回してください。
- 作業機を点検調整する場合には、作業機の下降を防止するため下降速度調整ノブを〝おそい〃（右方向）にいっぱいに締めてください。ロータリ等のクサリ付の作業機を装着する時は、クサリを併用してください。

運転する前に点検しましょう

注意
・安全のため点検前に必ずエンジン スイッチ キーを外してください。
・点検は平坦な場所で本機を水平にして行なってください。

故障を未然に防ぐには、本機の状態をいつもよく知っておくことが重要です。「運転をする前の点検」は毎日必ず行なってください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

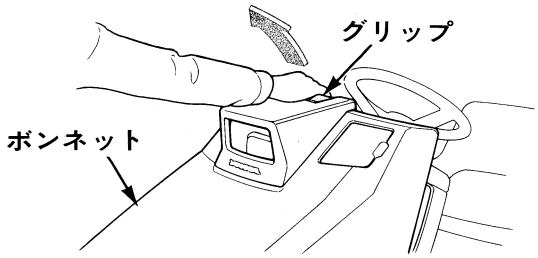
・開けかた

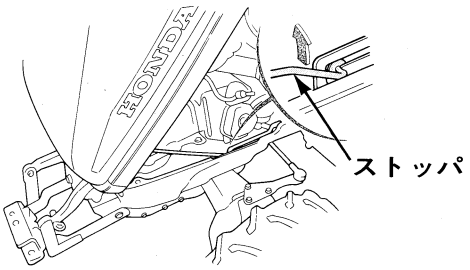
グリップを握りボンネットがストッパにより固定されるまで上方に引き上げてください。

・閉めかた

グリップを引き上げてから、ストッパを外して閉めてください。

注意
・ボンネットを閉めるときは、周囲に人がいないか注意して、ゆっくりと閉めてください。

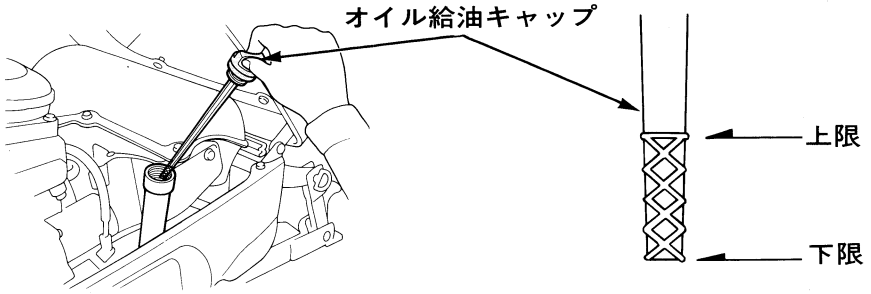




エンジン オイルの点検

点 検

オイル給油キャップ付近のほこりを取り除き、オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近いときには上限までオイルを補給(39頁参照)してください。



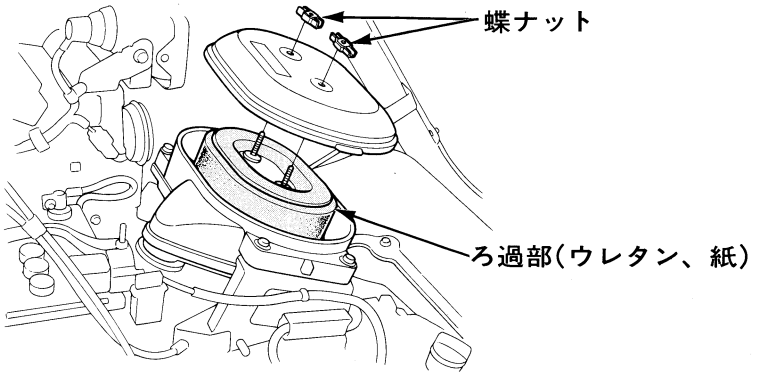
注意
・キャップは確実に締付けてください。締付がゆるいとオイルがもれる事があります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

1.蝶ナットを外し、空気清浄器カバーを取外します。

2.ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。

3.汚れがひどい場合はろ過部の清掃を行なってください。 (40頁参照)

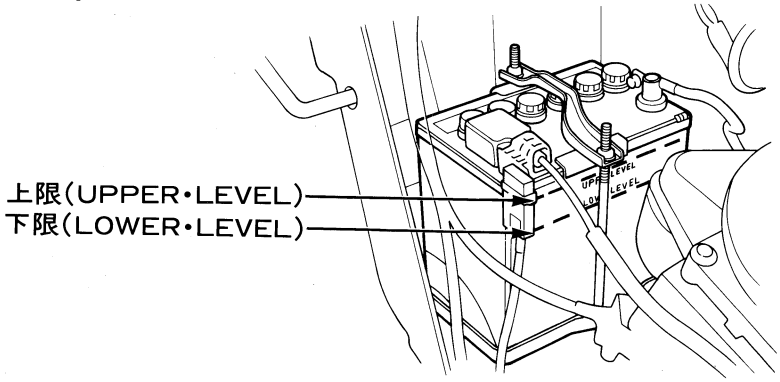


注意

- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行なってください。締付けが悪いと振動で、カバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部を装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。

バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER・LEVEL)と下限(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。



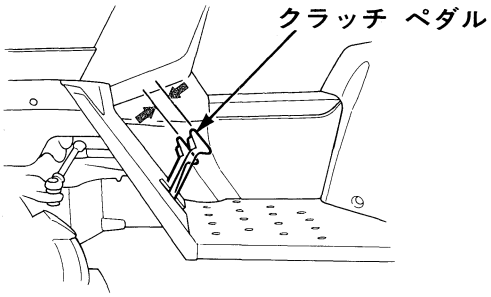
液が少ないときは41頁を参照して補給してください。

注意

- バッテリを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
  (バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。)
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、すみやかに専門医の診察を受けてください。

クラッチ ペダル遊びの点検

クラッチ ペダルの遊びを点検してください。もし遊びが2 mm以下になったときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

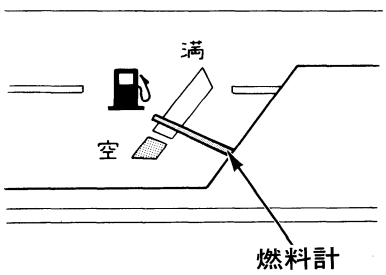


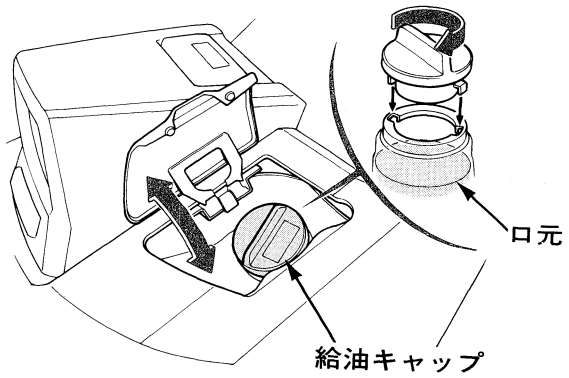
ガソリンの点検

点　検

エンジン スイッチを〝運転〟にしてから燃料計を確認してください。もし少ない場合は補給してください。

燃料計はエンジン スイッチ位置〝運転〟で作動します。





補　給

エンジン スイッチを〝停止〟にしてください。

給油キャップを外し、給油口の口元以下に補給してください。

使用ガソリン：無鉛レギュラ ガソリン

タンク容量：8.5 ℓ

補給後給油キャップを確実に締め付けてください。

注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンを止めてから補給してください。
- ガソリンはこぼさないでください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾いてから始動してください。

タイヤの空気圧、締付けナットの点検

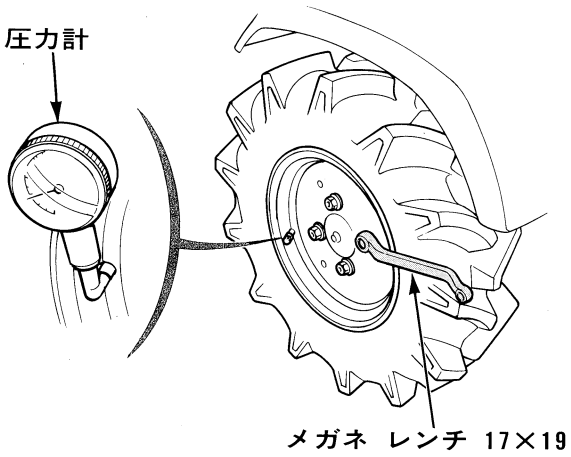
●圧力計でタイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：前輪　1.2kg/cm²

後輪　1.0kg/cm²

空気圧が高すぎたり、低すぎたりしている場合は、規定の空気圧にしてください。

●締付けナットを同梱のメガネ レンチで確認し、ゆるい場合は確実に締付けを行なってください。



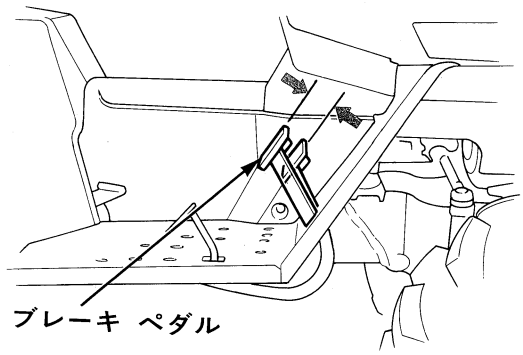
ブレーキ ペダル遊び、摩耗限界マークの点検

1.遊びの点検

ブレーキ ペダルを踏み込んで遊び代が規定値になっているか確認してください。また左右の踏み込み量が異なっていないか確認してください。

調整は41頁を参照してください。

遊び代　25mm



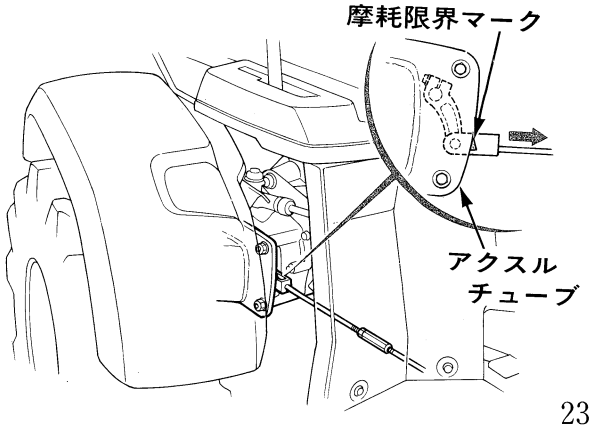
2.摩耗限界マークの点検

ブレーキ ライニングの状態を摩耗限界マークにて確認してください。

ブレーキ ペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキをロックしてください。

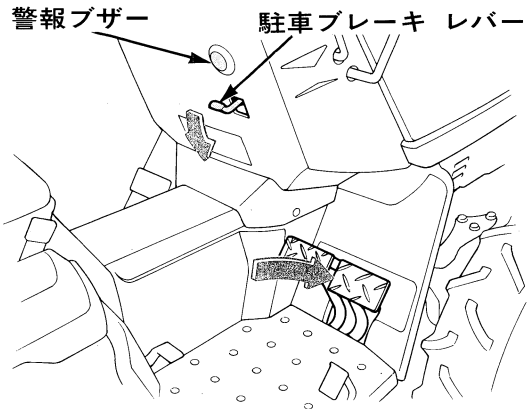
左右のアクスル チューブから、摩耗限界マークが見えるかどうか、確認してください。

もしどちらか一方でも限界マークが見えましたら、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。



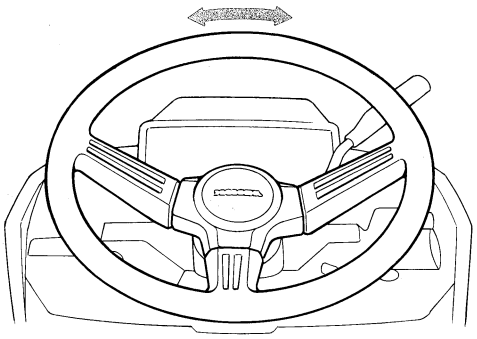
駐車ブレーキの点検(この点検はエンジン スイッチ キーを使用します)

駐車ブレーキのロックが確実に行なえる事を確認してください。駐車ブレーキをロック状態にしてクラッチ ペダルを踏み込み、エンジン スイッチを〝運転〟にして主変速レバーを入れ(中立以外)警報ブザーが鳴り続ける事を確認してください。この状態で駐車ブレーキを解除したとき警報ブザーが止まれば正常です。



ハンドルの遊び、ガタの点検

ハンドルの遊び30mm以下であること、また異常なガタがないことを確認してください。もし異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



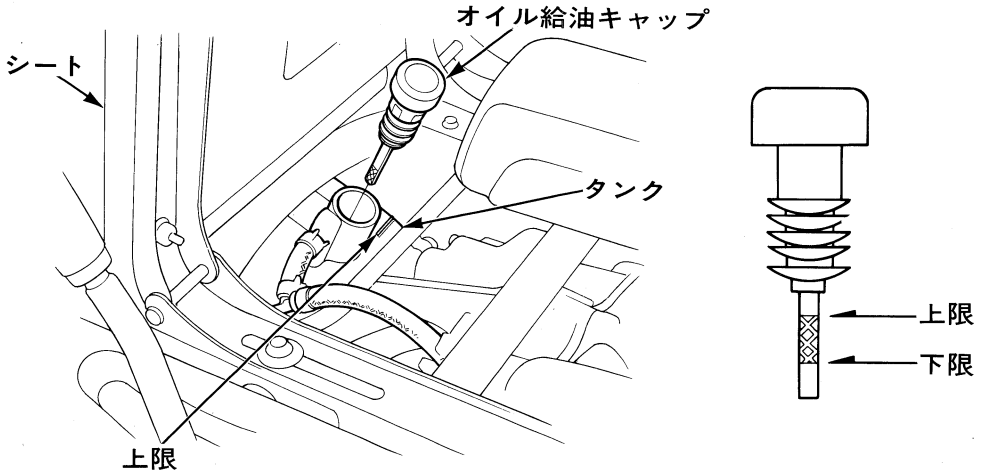
油圧系オイルの点検

注意

・点検する前に必ず前(K、KRタイプ除く)後のリフト アームを最下降位置まで押し下げてオイル給油キャップを外し、キャップを差し込んでオイルの量を点検してください。油面が下限に近いときはタンクの上限までオイルを補給してください。

指定オイル:ホンダ純正パワー ステアリング フルード

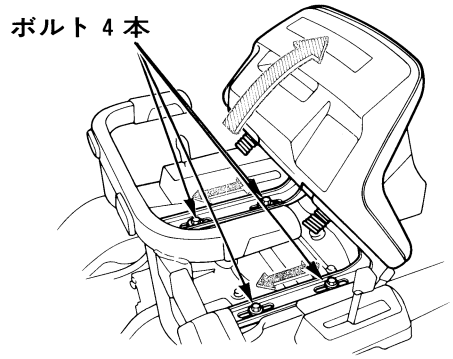
急激に減っているときは、油圧系統の異常が考えられます。お買いあげ販売店へお申しつけください。



シートの位置調整

運転に適した位置にシートを調整してください。

調整は取付けボルトをゆるめて行ない、調整後確実に取付けボルトを締付けてください。



電装品の点検(この点検はエンジン スイッチ キーを使用します)

エンジン スイッチを〝運転〟の位置にして、次の項目を点検してください。

1.前照灯の点灯、消灯確認

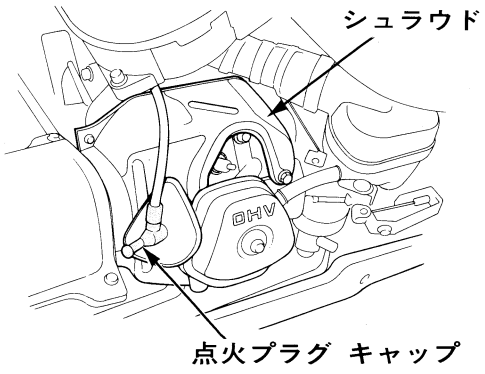
2.方向指示器、点滅の確認

3.警音器(ホーン)の確認

4.メータ パネル内の表示灯の作動確認

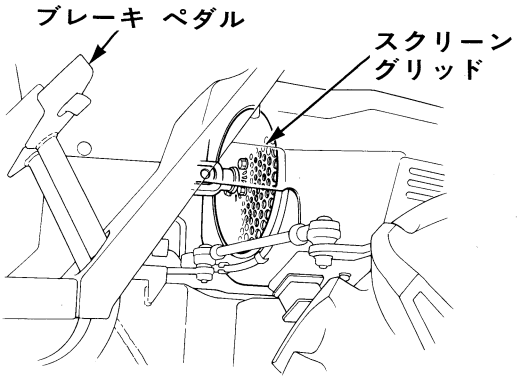
冷却フィン、シュラウドの点検

点火プラグ キヤップを外しシュラウド内のゴミを取り除いてください。汚れているときはきれいに清掃してください。清掃後、点火プラグ キャップを確実にプラグに差し込んでください。



空気取入れ口の点検

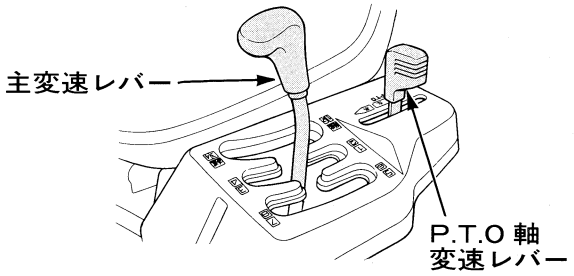
スクリーン グリッドの汚れ、ゴミを取り除いてください。

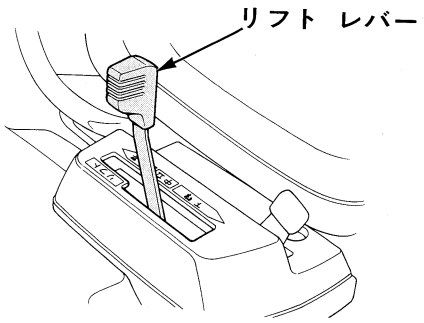


運　転　の　し　か　た

エンジンのかけかた

1.シートにすわり、主変速レバー、P.T.O軸変速レバー、リフト レバーを〝中立〟位置にしてください。

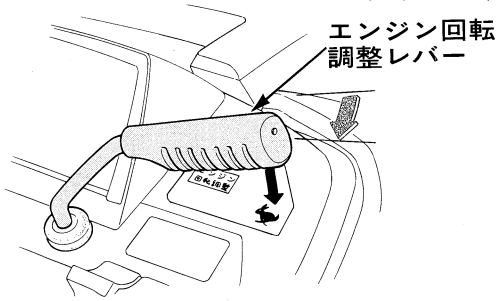


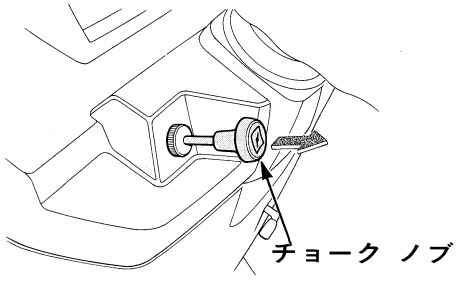


注意　・P、PRタイプはフロントP.T.Oレバーを〝切〟にしてください。

2.エンジン回転調整レバーを少し(中程)引いてください。

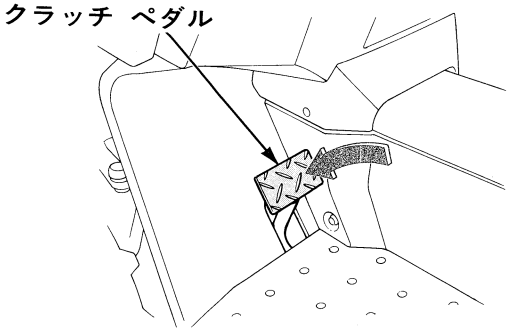
・エンジン冷間時にはチョーク ノブを引いてください。

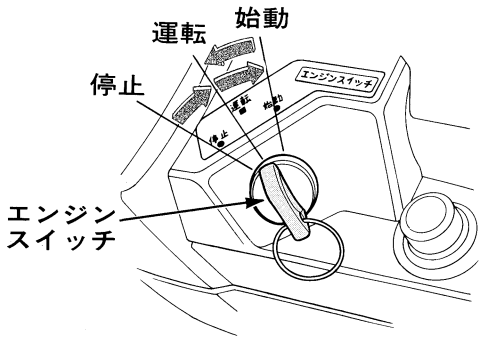




3.クラッチ ペダルをいっぱいに踏み込んで、エンジン スイッチ キーを〝始動〟の位置まで回わしてください。エンジンが始動したらキーより手を離してください。自動的に〝運転〟の位置まで戻ります。

注意　・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないと（P、PRタイプはフロントP.T.Oレバーを〝切〟にしないと）セル モータは回転しない構造になっています。



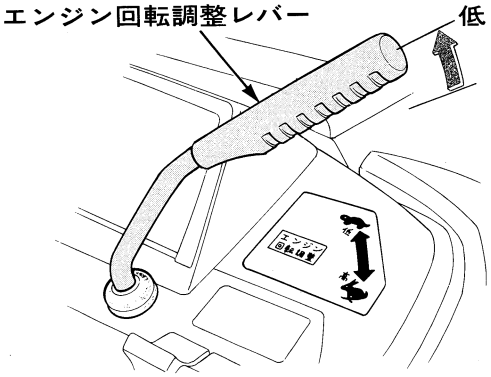


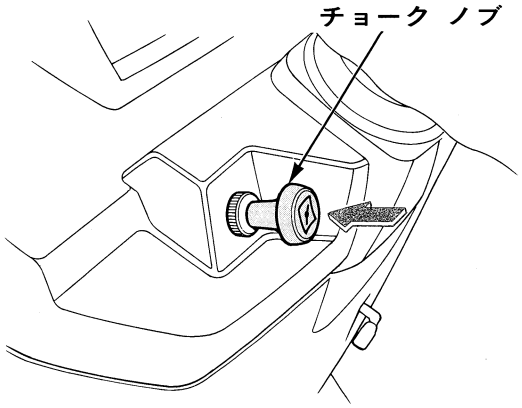
セル スタータ使用上の注意

セル モータは大電流を消費しますので10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして30秒以上休んでから再び始動の操作を行なってください。

4.チョークを使用したときは、エンジン暖気後、回転が安定したら、元に戻してください。

・エンジン回転調整レバーを"低"の位置に戻してください。



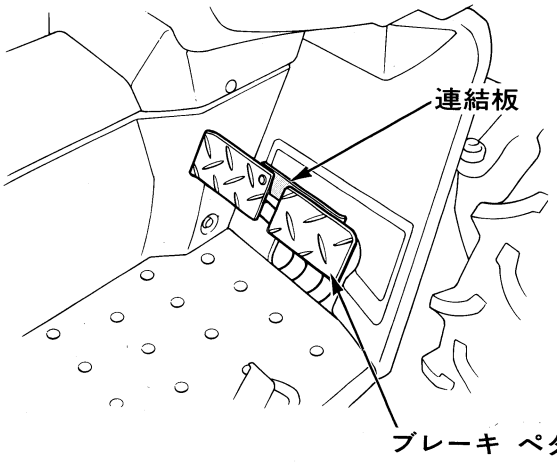


発進、走行のしかた

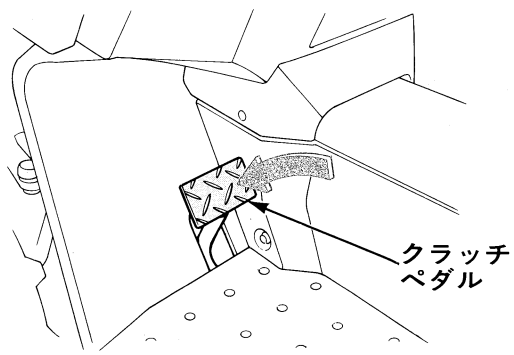
注意

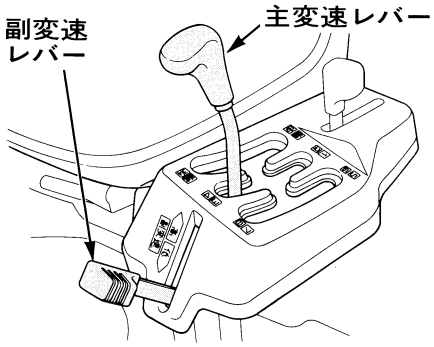
・急発進はしないでください。
・発進時ハンドルは直進状態にしてください。
・作業機を付けている場合は、作業機を十分に上げて、クサリ等で落下防止の処置をしてください。

1.ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

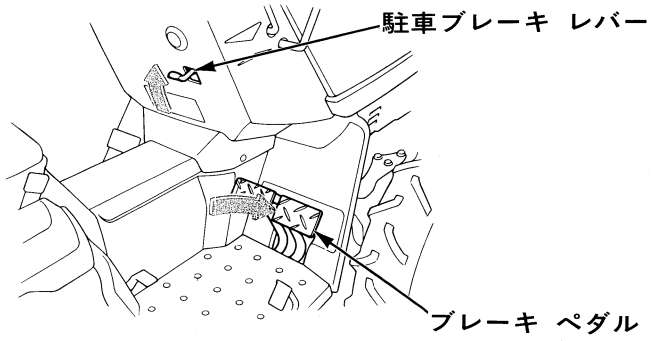


2.クラッチ ペダルを踏み込んで、主、副変速レバーを使用する位置に入れてください。主変速レバーを入れたときに、駐車ブレーキ戻し忘れ警報ブザーが鳴ります。

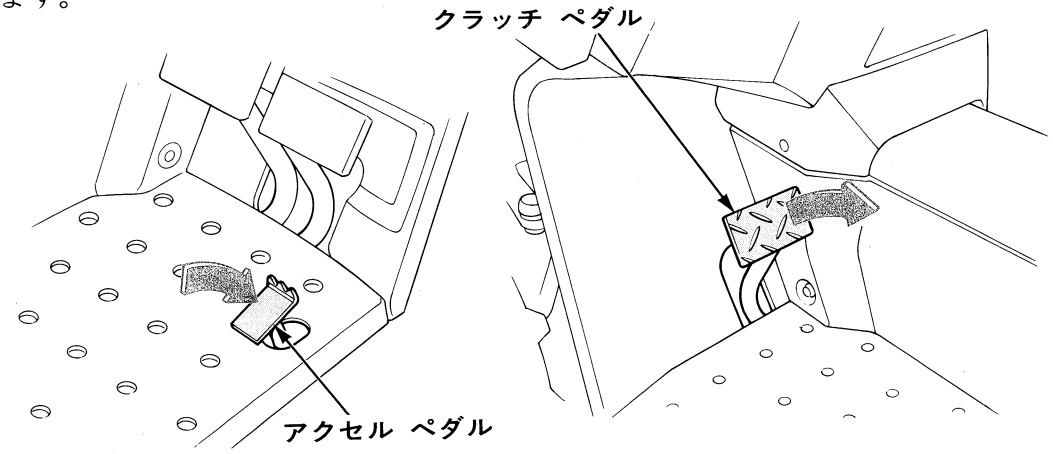




3.ブレーキ ペダルを踏んで駐車ブレーキを解除してください。警報ブザーは止まります。



4.アクセル ペダルを少し踏み、クラッチ ペダルを離してください。スムーズに発進、ができます。



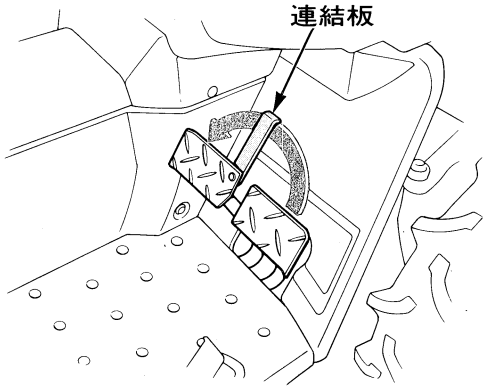
注意

- 走行中はクラッチ ペダルの上に足を乗せないでください。またクラッチを切るときは素早く行なってください。
- 急にクラッチ ペダルを離すと、急に飛び出し危険ですので注意してください。
- 走行中に変速はできません。必ずクラッチ ペダルをいっぱい踏み込んで本機を停止させてから行なってください。

旋回のしかた

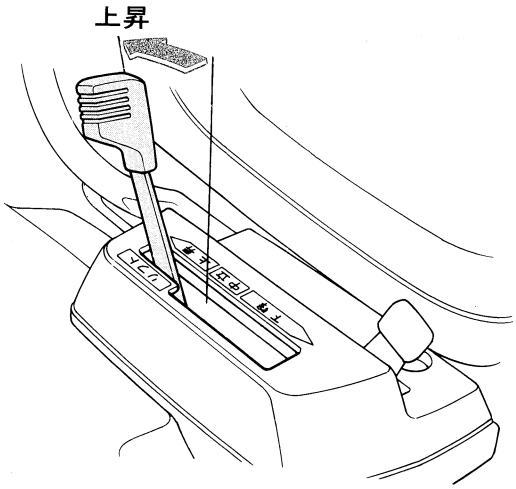
旋回するときは、できる限り車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

1.圃場での作業時に片ブレーキが必要な場合は、ブレーキ ペダルの連結板を外して、右、左単独にブレーキが効くようにしてください。

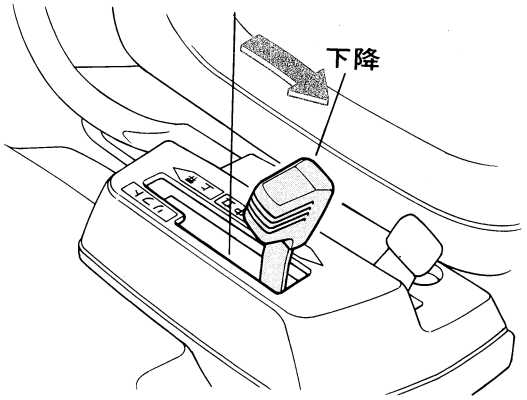


2.耕うん作業等で旋回する時は、作業機をリフトレバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

（旋回時リフトレバー上昇）



（旋回後リフトレバー下降）



3.信地旋回(片ブレーキ旋回)の時には、ハンドルを旋回方向へ回わしながら旋回方向のブレーキ ペダルを踏み車輪をロックさせて旋回してください。

旋回完了後ハンドルを戻してブレーキを解除してください。

注意　・旋回時は、周囲を十分確認して旋回してください。

坂道での運転のしかた

坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

1.登り坂の場合

変速は登り坂の手前で行なってください。

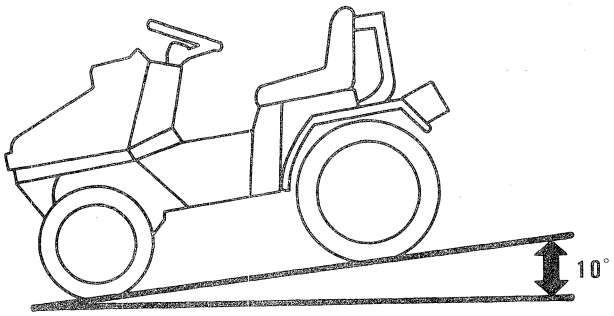
2.下り坂の場合

下り坂ではエンジン ブレーキを活用してください。

低速ギヤほどエンジン ブレーキは良く効きます。

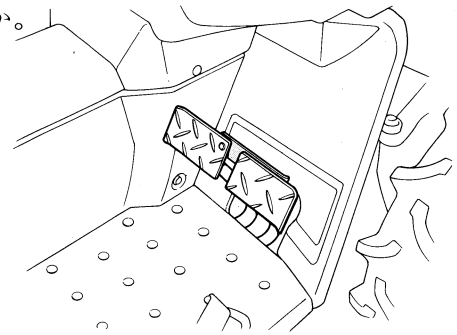
注意

- 傾斜地使用では、最大傾斜角度10度以内でご使用ください。
- ブレーキ ペダルのセット(連結)はしてありますか。
- 坂道では主変速を中立にしたり、変速操作やクラッチ操作をしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをロックして、車輪止めをしてください。
- 登り坂での発進はとくにゆっくりと行なってください。

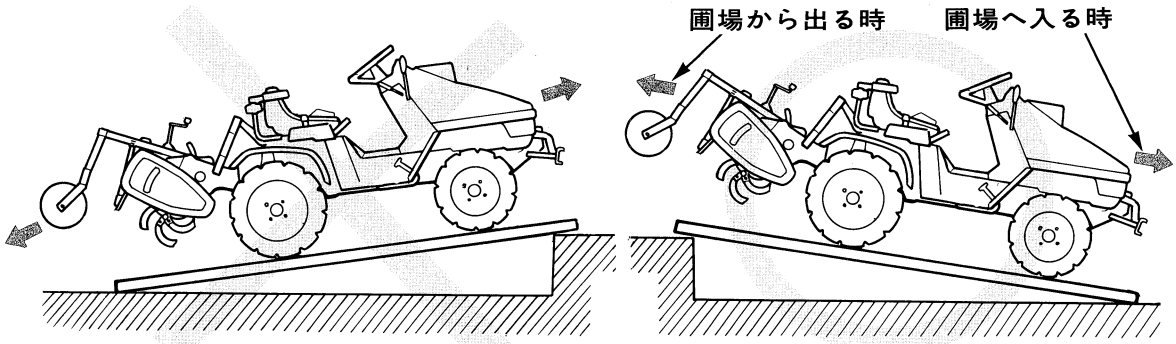


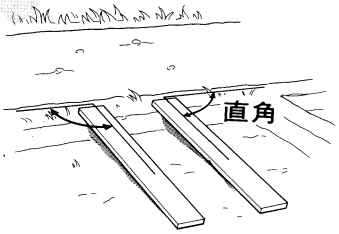
圃場への出入り時の注意

1.ブレーキ ペダルのセット(連結)はしてありますか。



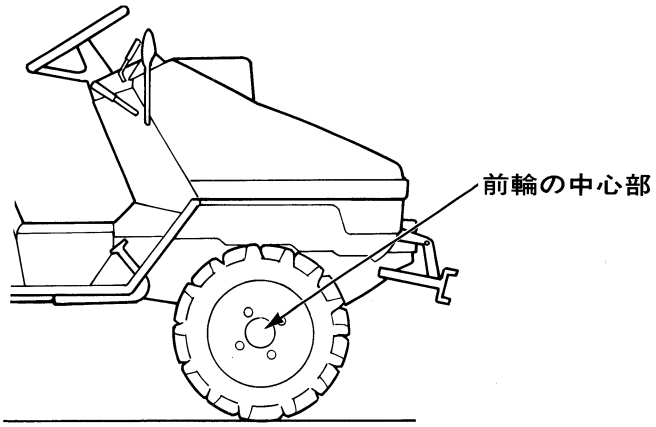
2.圃場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。





湿田での注意

土質等で異なりますが前輪の中心部より車輪が沈むような場所では使用しないでください。



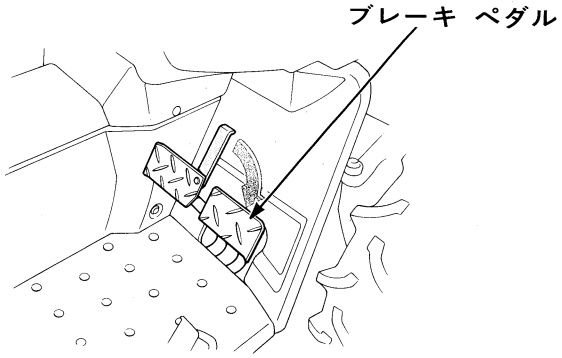
公道走行時の注意

注意　公道を走行するときは、必ず免許(小型特殊)を携帯して、交通ルールをお守りください。

1.公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。

2.夜間走行のときは、前照灯の使い方に注意してください。

3.ブレーキ ペダルは必ずセット(連結)してください。

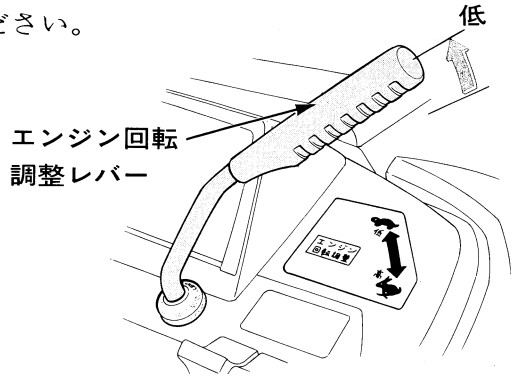


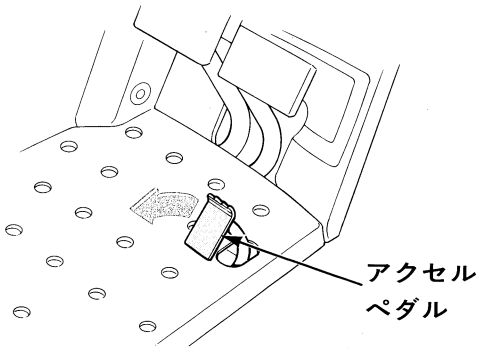
4.作業機を装着して公道を走行する事はできません。道路運送車両法に違反となります。注意してください。

注意
- 公道走行中はデフロックは使用しないでください。
- 公道走行するときは、関係法規を守り安全運転に心がけてください。
- 本機は乗車定員1名です。運転者の他は乗せないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。

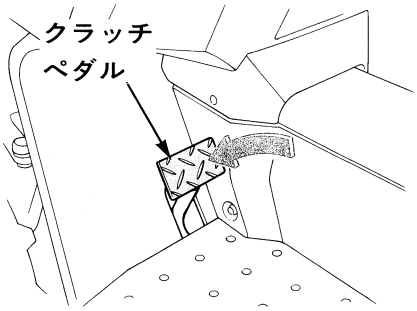
停車・エンジン停止のしかた

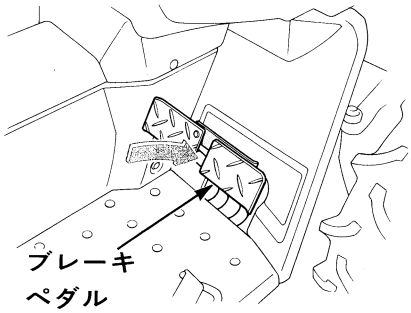
1.エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にしてください。またはアクセル ペダルを離してください。

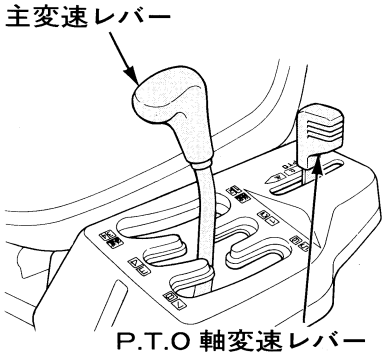




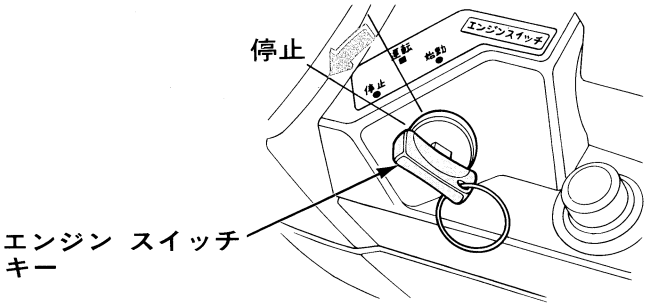
2.クラッチ ペダルを踏み込み、同時にブレーキ ペダルを踏み、主変速、P.T.O軸変速レバーを〝中立〟にしてください。



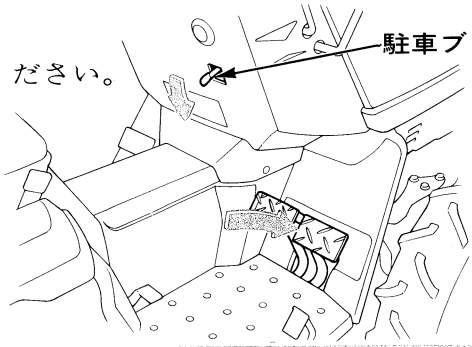




3.エンジン スイッチを〝停止〟にしてキーを外してください。



4.駐車ブレーキをロックしてください。



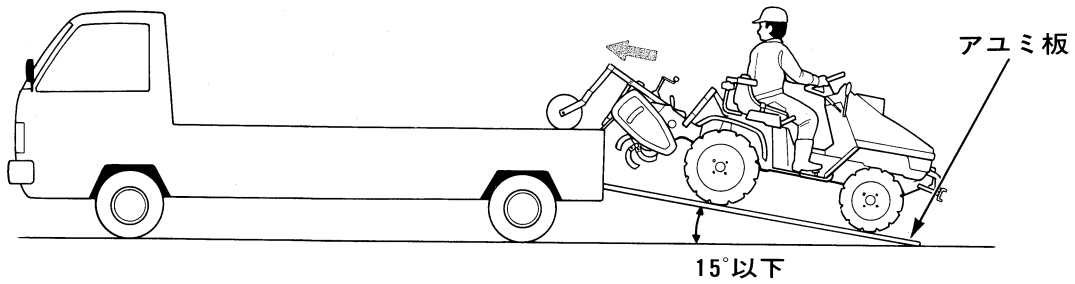
運　搬　・　保　管　の　し　か　た

運搬(トラックへの積込み、積降ろし)

1.積込む時は、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。

2.本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。

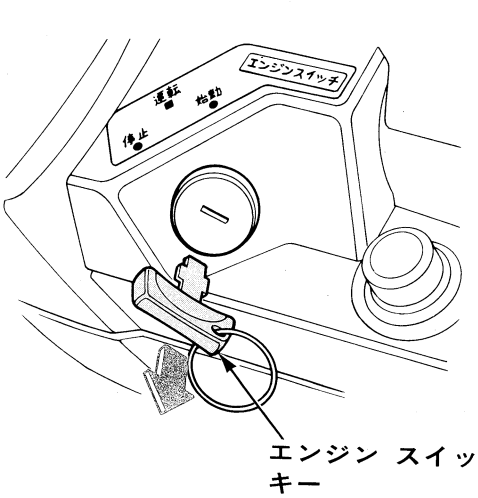
3.ハンドル操作は落輪しないように慎重に行なってください。

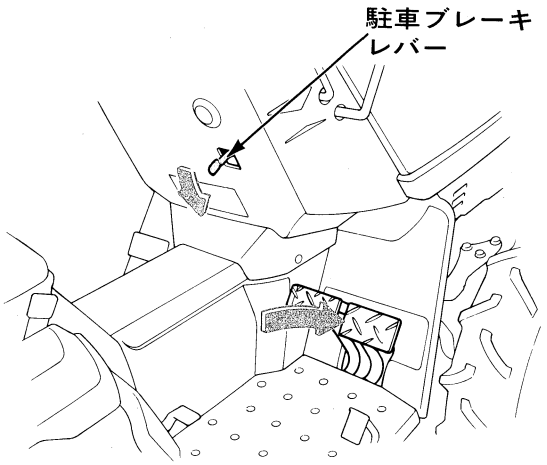


注意

- 万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキ ペダルを踏み、次にクラッチ ペダルを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら、平担な所まで移動してください。再度エンジンを始動して積込み作業を行なってください。
- 必ず左右のブレーキ ペダルはセット(連結)してください。
- 積込み、積降ろし作業は２人以上で安全を確認してから行なってください。

2.積込み後は、エンジン スイッチ キーを外して、駐車ブレーキをロックして、ロープで本機を確実に固定してください。



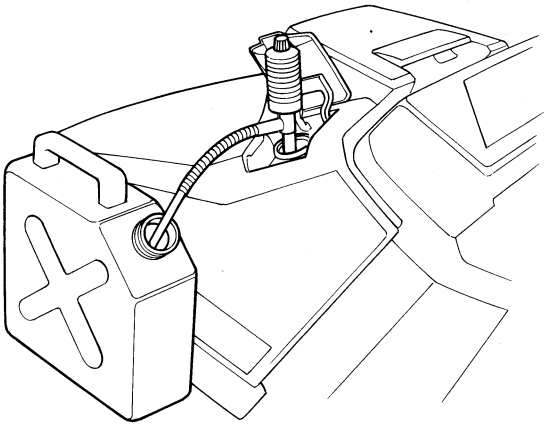


3.積降ろしは、積込みの逆の手順で安全に注意して行なってください。

保　管

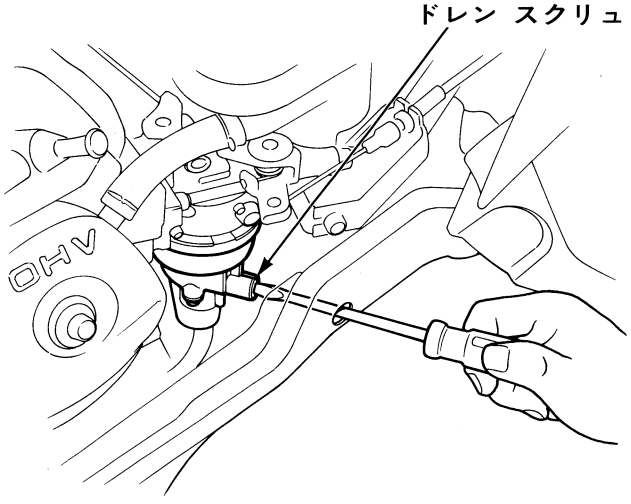
本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行なった後格納してください。

1.燃料タンク内のガソリンを抜いてください。



2.気化器(キャブレータ)内のガソリンを抜いてください。

ドレン スクリュをゆるめて容器にガソリンを抜いてください。完全に抜けたらドレンスクリュを確実に締付けてください。



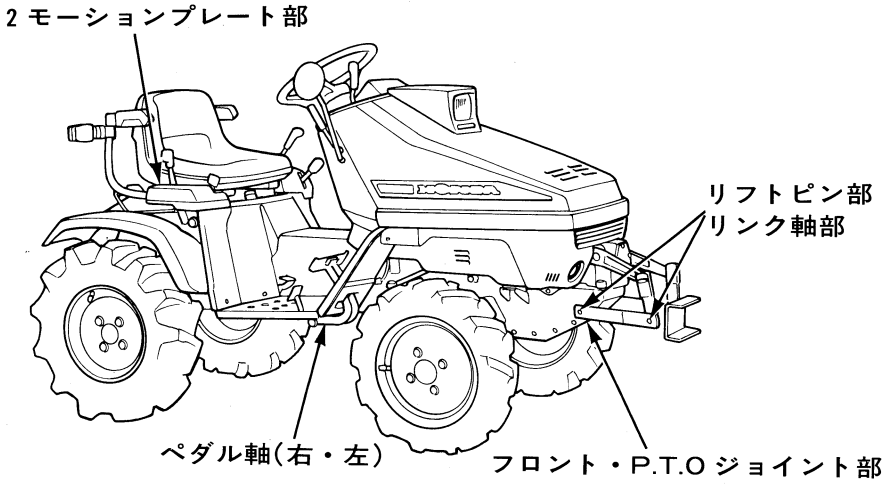
注意

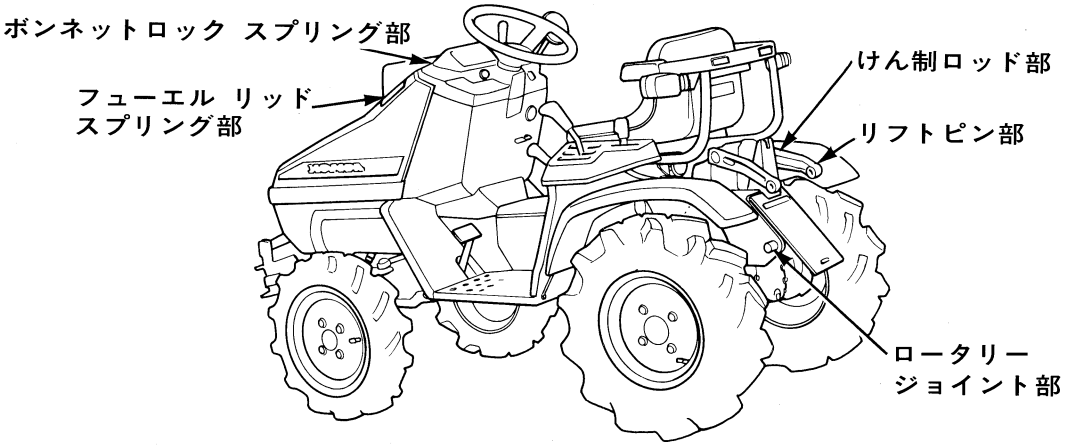
- 燃料を抜くときは火気厳禁
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 燃料タンク内のガソリンを抜くときは、エンジンと排気装置が完全に冷えてから行なってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行なってください。

3.エンジン オイルを交換してください。

交換方法は、39頁を参照してください。

4.各部にグリースを塗布してください。





5.タイヤの空気圧は、標準より少し多めに入れてください。

6.各部の配線、バッテリ コード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コード クランプの外れは確実に点検、整備してください。

7.バッテリ アースコードを端子から外してください。また、格納中バッテリは1ヶ月に一回完全充電してください。

8.不具合箇所は整備してください。

9.定期点検項目を確認してください。

10.駐車ブレーキをロックして、風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。

注意 本機にシートをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行なってください。

定期手入れを行ないましょう

注意

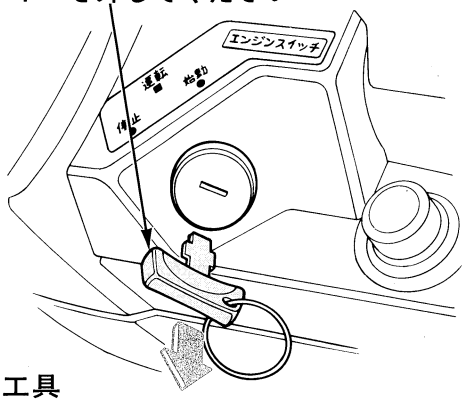
・手入れを行なうときは、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、駐車ブレーキをロックして、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行なってください。

・手入れや修理には必らずホンダ純正部品を使用してください。

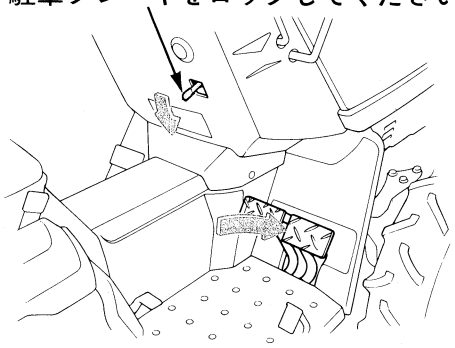
本機の高い性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。

キーを外してください

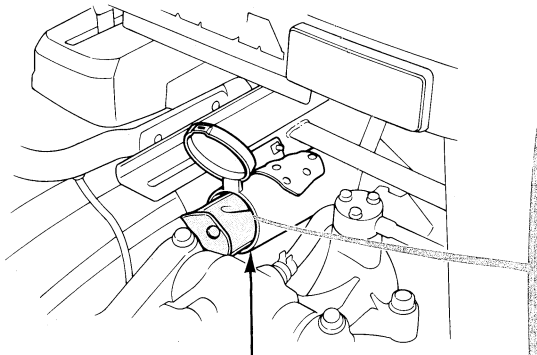


駐車ブレーキをロックしてください

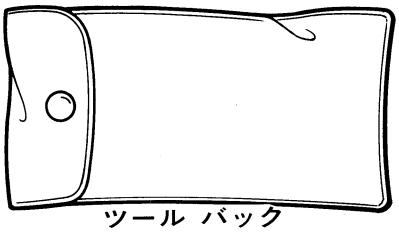


携帯工具

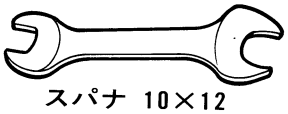
工具は点検、整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



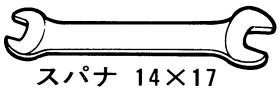
ツール ボックス



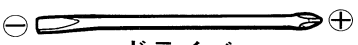
ツール バック



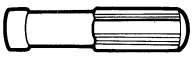
スパナ 10×12



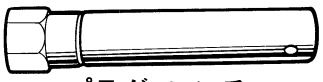
スパナ 14×17



ドライバ



ドライバ ハンドル



プラグ レンチ



メガネ レンチ17×19

定期点検表

点検項目＼点検時間		作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転 毎又は1年1回
エンジンオイル	点検	○				
	交換		○		○	
変速機オイル	点検				○	
油圧系 オイル量、もれ	点検	○				
バッテリー	液量点検	○				
	液量、比重、ターミナル点検			○		
電気配線、各ターミナルのゆるみ、クランプの状態、絶縁状態の点検						○〈注2〉
燃料タンク	ガソリン量、もれ点検	○				
	タンク及びろ過網清掃					○〈注2〉
空気清浄器(エア クリーナ)	点検	○				
	清掃			○〈注1〉		
冷却空気取入口	清掃	○				
冷却フィン、シュラウド	点検	○				
タイヤ	締付ボルト点検	○				
	空気圧、き裂、損傷点検	○				
	トーイン調整					○〈注2〉
タイロッドの曲がり、ボールジョイントのガタ点検、トーイン調整						○〈注2〉
ハンドル	遊び、ガタ点検	○				
クラッチペダル	遊び点検	○				
	調整					○〈注2〉
ブレーキペダル	遊び、効き点検	○				
	調整		○			○
	摩耗限界マーク点検	○	○			○
駐車ブレーキ 作動、警報ブザー	点検	○				
排気ガスの色、異常音	点検	○				
前照灯	点検	○				
方向指示器	点検	○				
警音器(ホーン)	点検	○				
点火プラグ	点検、清掃				○	
燃料ろ過カップ	清掃					○
各部のゆるみ点検、増締め 各部給油及びグリス塗布						○
エンジン回転	調整					○〈注2〉
吸入排気弁隙間	調整					○〈注2〉
燃料チューブ	交換	3年毎〈注2〉				

〈注1〉ホコリの多い所で使用した場合、空気清浄器(エア クリーナ)の清掃は、10時間または1日1回行なってください。

〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

点検、整備は平坦な場所で本機を水平にして行なってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回20時間目、以後：100時間運転毎

《指定オイル》

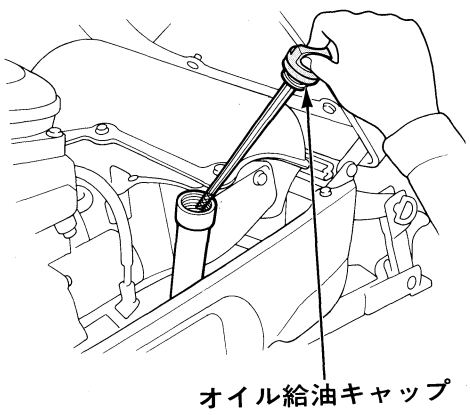
ホンダ純正ウルトラUまたはAPI分類SE級相当のSAE10W-30のエンジン オイル。

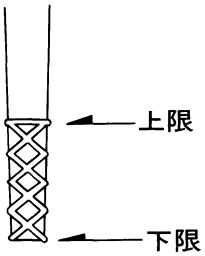
注意

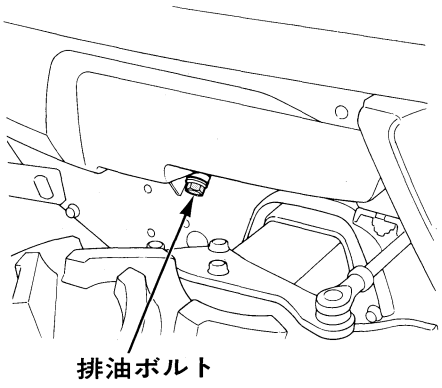
・気温－15℃以下で使用する場合は、ウルトラU5W-30またはSAE5W-30のエンジン オイルをご使用ください。

《規定量》 1.1ℓ

オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終りましたら排油ボルトを確実に締付けして、新しいオイルを規定量入れてください。オイル給油キャップを締めてください。







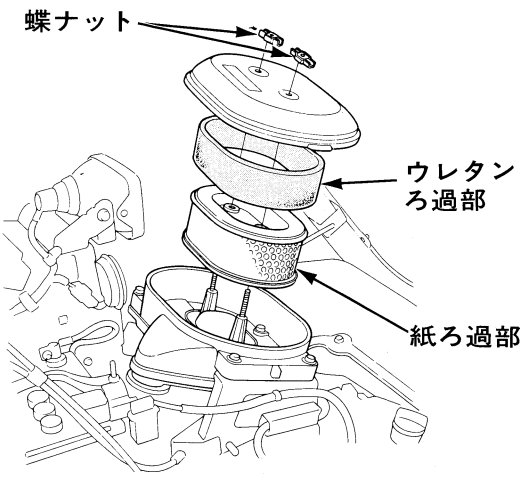
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器(エア クリーナ)が目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃時期》

50時間運転毎、ホコリの多い場所で使用した場合は、1日1回または10時間毎。

1. ボンネットを開け、蝶ナットを外しろ過部を取り外します。
2. ウレタンのろ過部は、中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるかまたはよく絞って乾かしてください。
   次にきれいなオイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
3. 紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きかけるか、または、軽く叩いて汚れを落します。
   汚れがひどい場合は交換してください。



点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》100時間運転毎

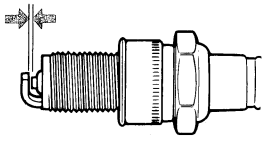
《清　　掃》プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。
お買いあげ販売店をご利用ください。

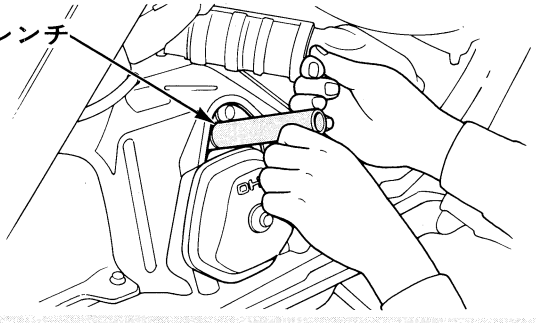
- プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

《調　　整》● 側方電極をつめ、火花すきまを1.0～1.1mmに調整してください。

《標準プラグ》

BPR6ES-11(NGK)
W20EPR-U11(ND)





注意

- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

バッテリ液量、端子の点検

《点検時期》 50時間運転毎

バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《補　　給》

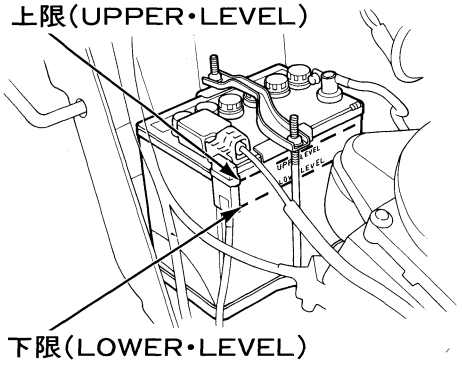
少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER・LEVEL)まで補給します。

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

注意

- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が浸されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。



ブレーキ ペダルの調整

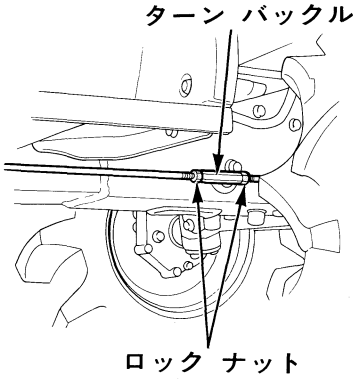
調整はロック ナット2ヶ所をゆるめ、ターンバックルを回して行ないます。

調整後ロック ナットを確実に締付けてください。

遊び代：25mm

注意

- ブレーキ ペダルを踏み込んで駐車ブレーキが確実にロックすることを確認してください。
- 左右のペダルの遊び代が同じになるように調整してください。

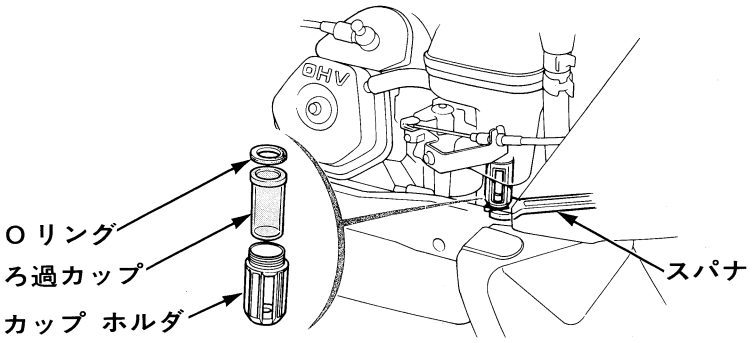


燃料ろ過カップの清掃

1.エンジン スイッチを〝停止〟にして、同梱のスパナでカップ ホルダを外して、燃料ろ過カップを外してください。

2.ろ過カップにたまったゴミや水分を洗浄してください。

3.Oリングを正しく取付けてろ過カップを確実に締付けてください。



注意
- 清掃時は火気厳禁
- 洗浄後ガソリン漏れのないことを確認してください。

変速機オイルの点検

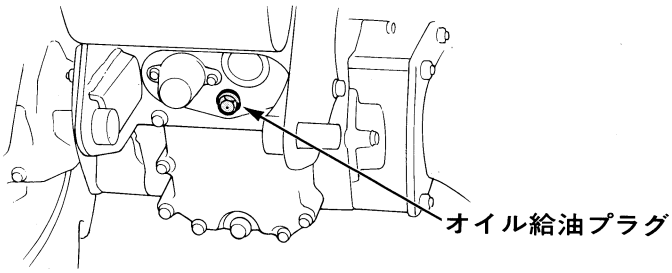
変速機オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。点検時期、オイル容量を守りましょう。

・本機を水平にして作業して下さい。

《**点検時期**》100時間運転毎

《**指定オイル**》ホンダ純正ウルトラMまたはウルトラUの10W-30のオイル。

《**点　　検**》オイル給油プラグを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。
少ない場合は、注入口の口元から少したれるまで補給してください。



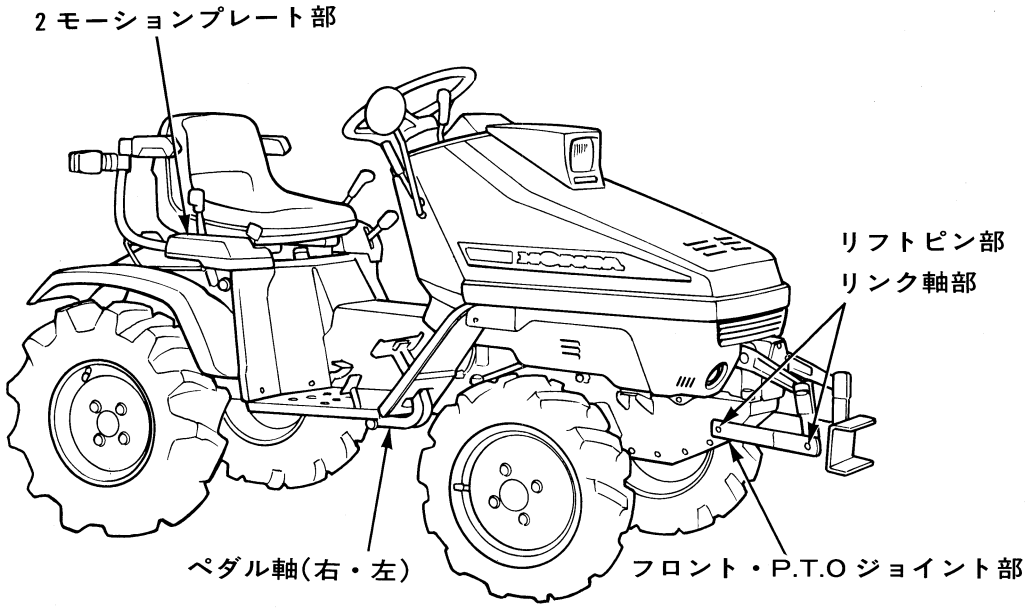
注意
- 気温－15℃以下で使用する場合は、ホンダ純正ウルトラUまたはMの5W-30のオイルをご使用ください。

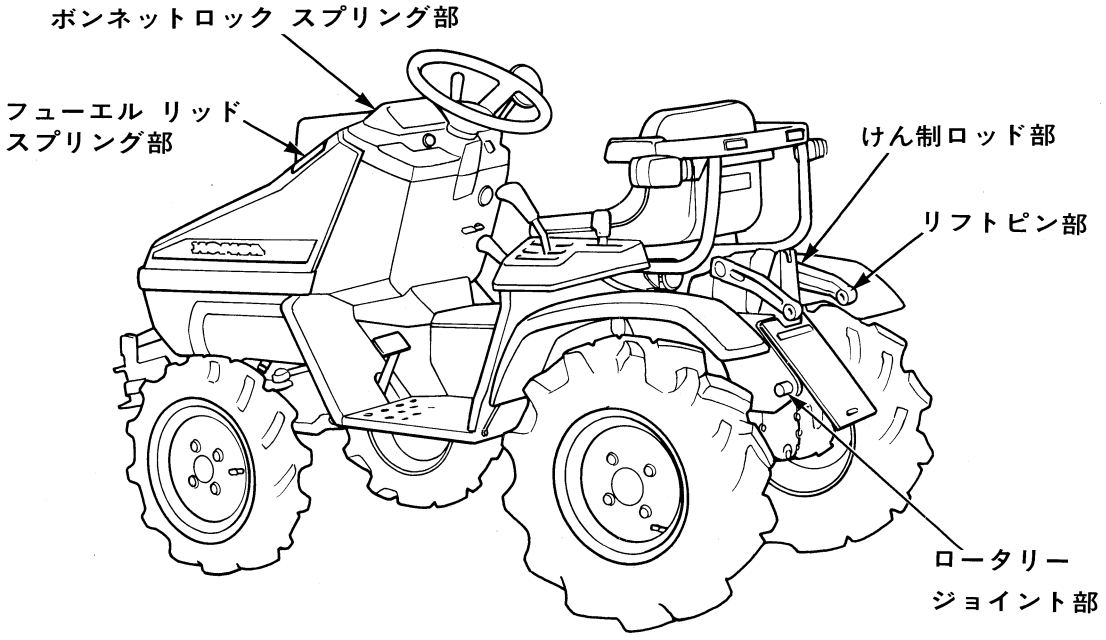
各部のゆるみ点検、増締め
各部の給油およびグリス塗布

《**点検時期**》300時間運転毎又は１年１回

・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいましたら確実に締付けを行なってください。

・給油およびグリス塗布箇所





故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが本機を長持ちさせる秘けつです。

1.スタータが回転しないときは

- クラッチ ペダルを踏み込んでいますか　→クラッチ ペダルを完全に踏み込んでから、エンジン スイッチを〝始動〟にしてください。
- バッテリ ターミナル部がゆるんでいたり腐蝕していませんか。　→ターミナル部を清掃し、確実に取付けてください。
- フロントP.T.Oクラッチ レバーは〝切〟になっていますか(P.PRタイプのみ)　→〝切〟にしてください。
- ヒューズが切れていませんか。　→新しいヒューズと交換してください。
- バッテリが放電していませんか。　→バッテリを充電してください。

2.スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

- ガソリンはありますか　→補給してください。(22頁参照)
- 始動手順が間違っていませんか　→正しい始動手順でやり通してください。(26頁参照)

3.エンジンの力が出ないときは

- 空気清浄器(エア クリーナ)のろ過部が目づまりしていませんか　→ろ過部を清掃してください。(21頁参照)

4.灯光装置が点灯しないときは

- エンジン スイッチが〝運転〟の位置になっていますか　→エンジン スイッチを〝運転〟にしてください。
- バルブ(電球)が切れていませんか　→新しい電球と交換してください。
- ヒューズが切れていませんか　→新しいヒューズと交換してください。

5.警音器(ホーン)が鳴らないときには、

- ヒューズが切れていませんか　→新しいヒューズと交換してください。
- エンジン スイッチが〝運転〟の位置になっていますか　→エンジン スイッチを確認してください。

6.アタッチ メント(ロータリ)が上げ下げできないときは

- 下降速度調整ノブは開いてますか　→下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。(19頁参照)
- リフト レバーが〝中立〟になっていませんか　→リフト レバーを作業に合わせて操作してください。
- 油圧用オイルは入っていますか　→オイルを規定量入れてください。(24頁参照)

7.チャージ ランプがエンジン始動後も消灯しないときは

・配線の破損、ショートなどがありませんか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

8.エンジン オイル警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・オイルは規定量入っていますか　→オイルを補給してください。(20頁参照)

9.走行中に駐車警告灯が点灯し、ブザーが鳴っているときには

・駐車ブレーキが解除されていますか　→解除してください。

10.ブレーキが片効きするときは

・各タイヤの空気圧が不均等なのではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(23頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊び量が左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(41頁参照)

・ブレーキ ペダル左右セット(連結)してありますか　→左右セット(連結)してください。

11.ハンドルが重いときは

・各タイヤの空気圧が不足していませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(23頁参照)

12.ハンドルが取られるときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(23頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊びが左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(41頁参照)

13.クラッチがすべるときは

・クラッチ ペダルの遊びは適切ですか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

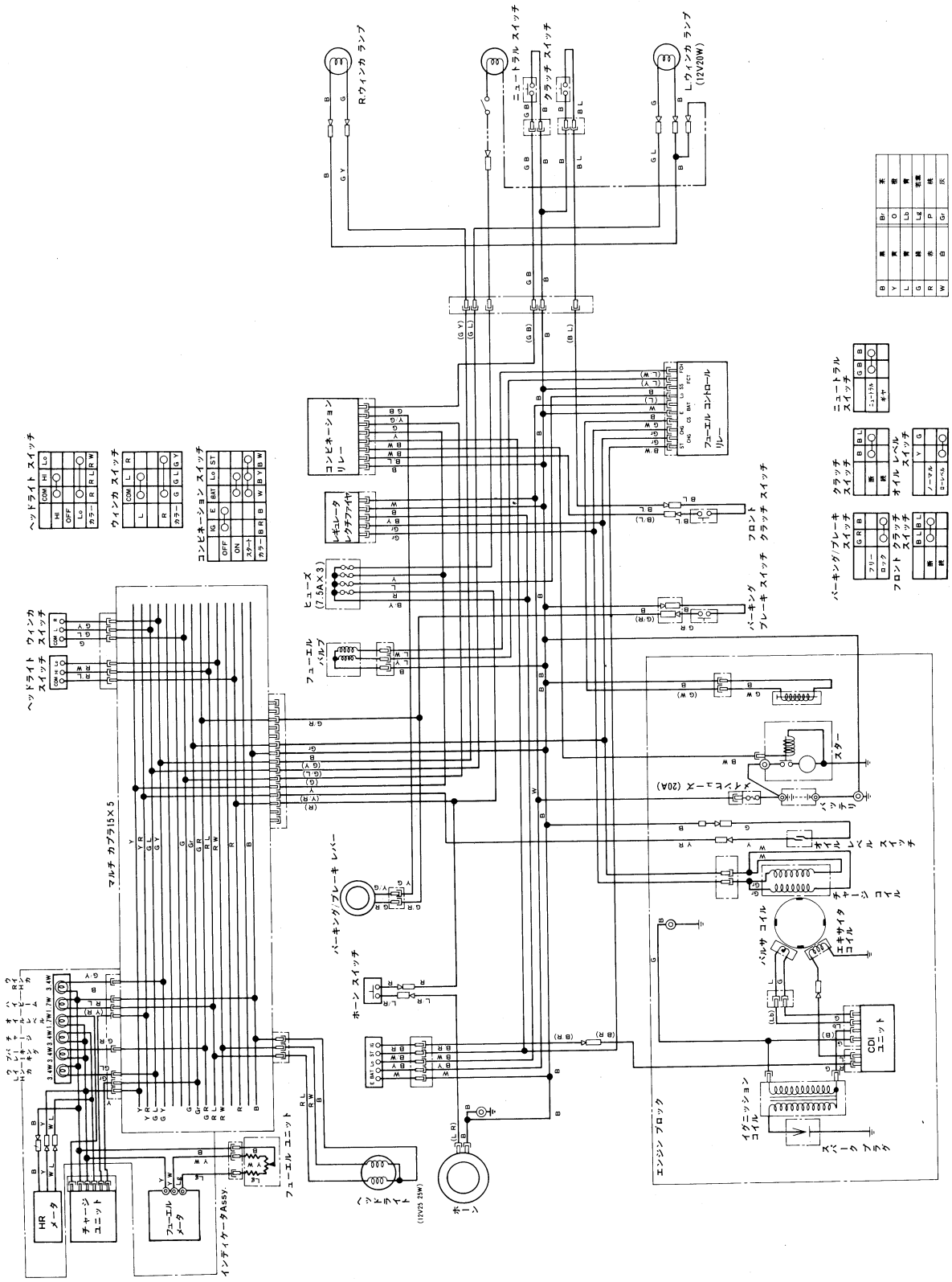
主　要　諸　元

名称		RT1100		
タイプ		K	L	P
型式		FA2A(農用トラクタ)		
エンジン	型式	ホンダGC05		
	形式	強制空冷4サイクル頭上弁式25°傾斜		
	シリンダ数	単気筒		
	総行程容積	337cc		
	最大出力／回転速度	11PS／3600rpm		
	シリンダ内径×行程	82×64mm		
	使用燃料	無鉛ガソリン		
	始動方式	セルスタータ式		
	潤滑方式	強制飛沫式		
	冷却方式	強制空冷		
	バッテリ容量	12V—30AH(標準)		
車両寸法	全長	1980mm	2180mm	
	全幅	950mm		
	全高	1240mm		
	軸距	1195mm		
	最低地上高	280mm		
輪距	前輪	790mm		
	後輪	760mm		
サイズタイヤ	前輪	4.00—12—2PR		
	後輪	6.00—12—2PR		
重量(装備)		370kg	390kg	395kg
リヤPTO軸	回転速度	低速995rpm 高速1840rpm		
	軸寸法	6×23×28mm角形スプライン		
フロントPTO軸 PR・Pタイプ	回転速度	2,800rpm		
	軸寸法	6×23×28mm角形スプライン		
クラッチ		湿式多板		
操行装置		ピニオン&セクタギヤ(4輪)		
変速方式		ギヤ選択摺動式		
変速段数		前進8段，後進4段		
最小回転半径		1.8m		
制動装置		機械式リーディング トレーリング(後2輪)		
差動装置		ベベルギヤ方式		
安全鑑定番号		1001013		
型式認定番号		農1633		

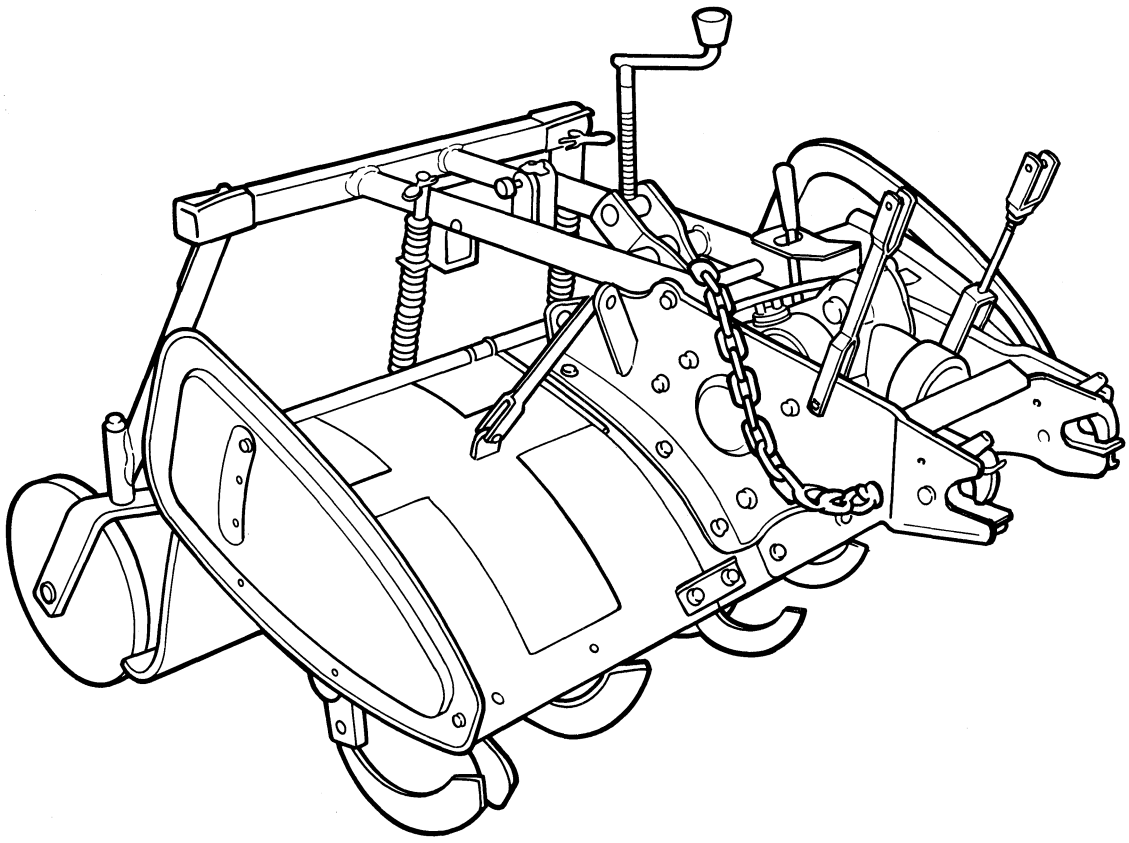
※・上記諸元にはロータリ付KR、LR、PRタイプは記載されておりません。ご了承ください。
・諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

		副変速	主変速	Km／h
走行速度	前進	低	1	0.7
			3	1.6
			5	3.5
			7	7.3
		高	2	1.2
			4	2.5
			6	5.5
			8	11.5
	後進	低	1	0.9
			3	1.9
		高	2	1.4
			4	2.9

配　線　図


R.ウィンカ ランプ
ニュートラル スイッチ
クラッチ スイッチ
L.ウィンカ ランプ (12V20W)
ヘッドライト スイッチ
ウィンカ スイッチ
コンビネーション スイッチ
コンビネーション リレー
レギュレータ レクティファイヤ
フューエル コントロール リレー
ヒューズ (7.5A×3)
フューエル パルプ
フロント クラッチ スイッチ
パーキング ブレーキ スイッチ
ニュートラル スイッチ
クラッチ スイッチ
オイル レベル スイッチ
バッテリ
スター
メインヒューズ (20A)
オイル レベル スイッチ
チャージ コイル
パルサ コイル
エキサイタ コイル
CDI ユニット
イグニッション コイル
スパーク プラグ
エンジン ブロック
マルチ カプラ15×5
パーキング/ブレーキ レバー
ホーン スイッチ
フューエル ユニット
ヘッドライト (12V25 25W)
ホーン
HR メータ
チャージ ユニット
フューエル メータ
インディケータAssy

ロータリの取扱い説明



メ　　モ

目　次

安全にお使いいただくために　これだけはぜひ守りましょう ……52

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう ……54
1．耕深調整ハンドル ……54
2．ハンガ ロッド……55
3．サイド カバー……55
4．クサリ ……56
5．リヤ カバー……56
6．ホイール パイプ コンプリート ……56
7．ロータリ正、逆切換えレバー(正転、逆転) ……57
8．ロータリ変速レバー(高速、低速) ……57

ロータリの取付け、取外し ……58
取付けかた ……58
取付け後の作動確認 ……61
取外しかた ……61

運転する前に点検しましょう……62
ロータリ爪の点検 ……62
ロータリ変速機オイルの点検 ……62

ロータリ爪の交換について……63
正転普通耕うんのときは ……63
正転外盛耕うんのときは ……64
正転内盛耕うんのときは ……64
逆転普通耕うんのときは ……64

耕うん方法について ……66
主要諸元……67

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

ロータリの取り扱いは正しく。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的なロータリ作業のため次のことを必ずお守りください。

別冊の「安全のしおり」を必ずお読みください。

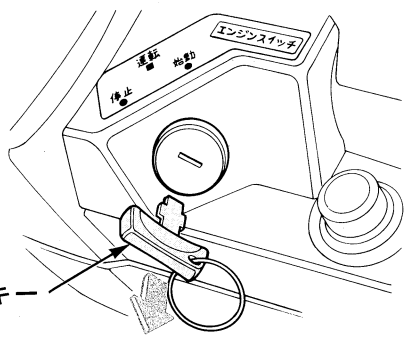
安全のために知っておきたいこと

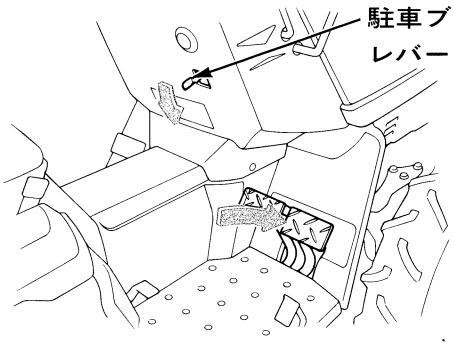
☆この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。

☆日常点検、整備を忘れずに行なってください。

☆人を乗せたり、近寄らせないでください。

☆各部の点検整備を行なうときは、エンジンを止め、キーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行なってください。



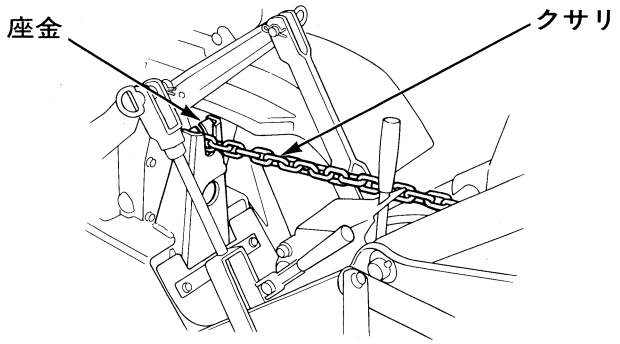


耕うん爪の点検、清掃、交換のときは

注意 ・点検は平坦な場所で行なってください。

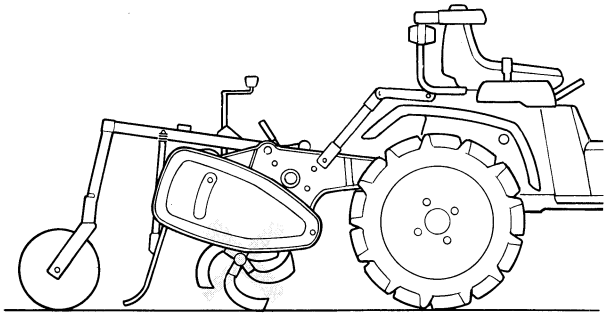
☆エンジンを止めキーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行なってください。

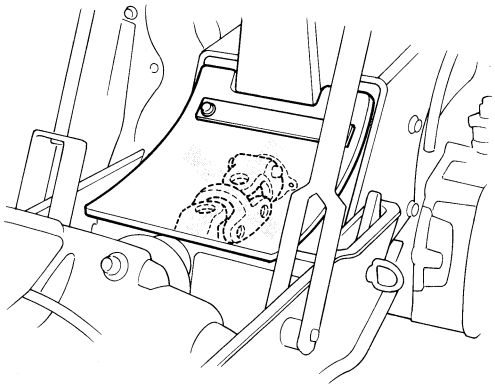
☆ロータリのクサリは必ず本機にたるみなくセットしてから行なってください。



●作業中の注意

☆回転部分には絶対に手や足を近づけないでください。





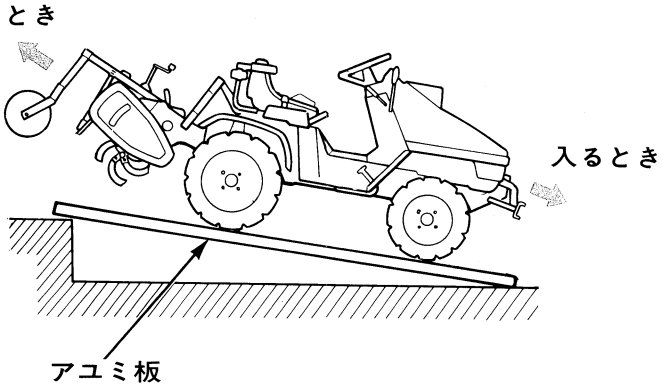
☆ロータリの上には乗らないでください。

☆ロータリの上げ下げ、後進、および旋回のときには周囲の安全に十分に注意してください。

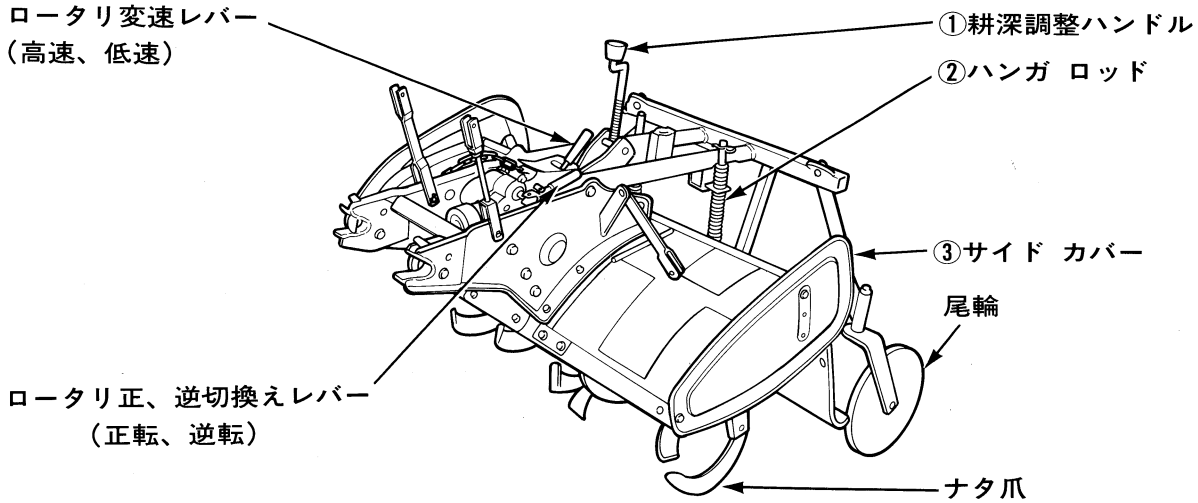
☆段差の大きい作業場への出入りは必ず丈夫なアユミ板を使用してエンジン回転を低にして、低速で行なってください。

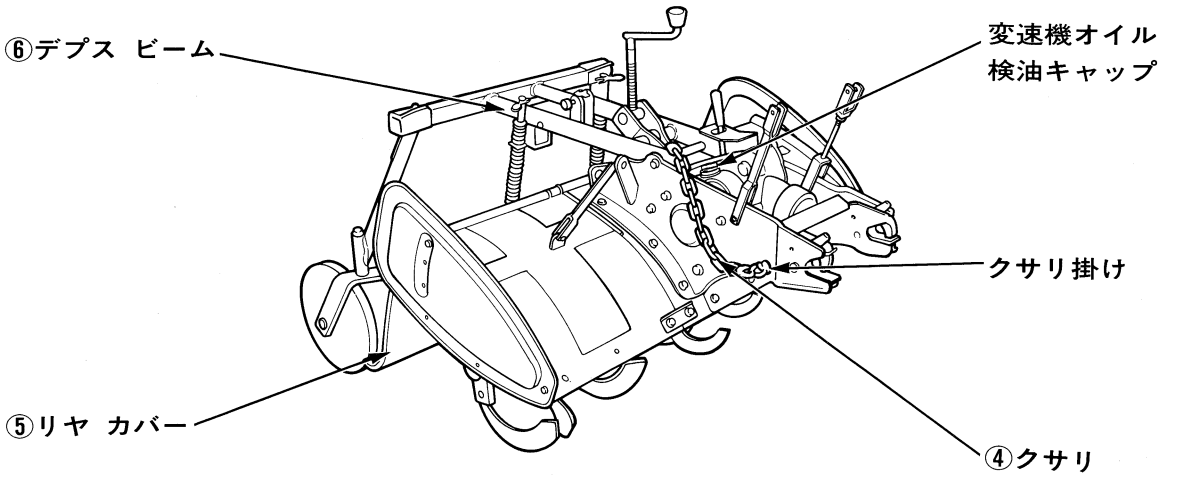
☆作業状態に合った爪軸回転と車速を選んでください。

万一、硬い圃場等で作業中に本機が飛出した場合は、すぐにクラッチを切り、ブレーキを踏んでより低い車速にして、爪軸回転を上げてください。



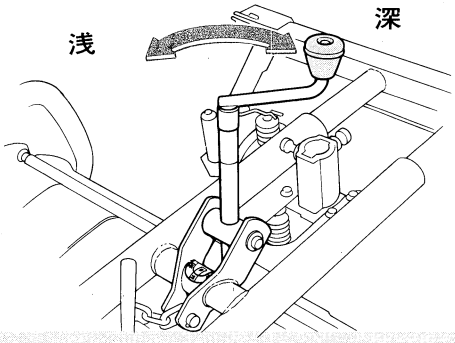
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう





1．耕深調整ハンドル

耕深調整ハンドルを回わすことにより耕深を調整できます。



注意　・耕深調整は、本機を前進させながら本機の側方からの調整は絶対しないでください。

2．ハンガ ロッド

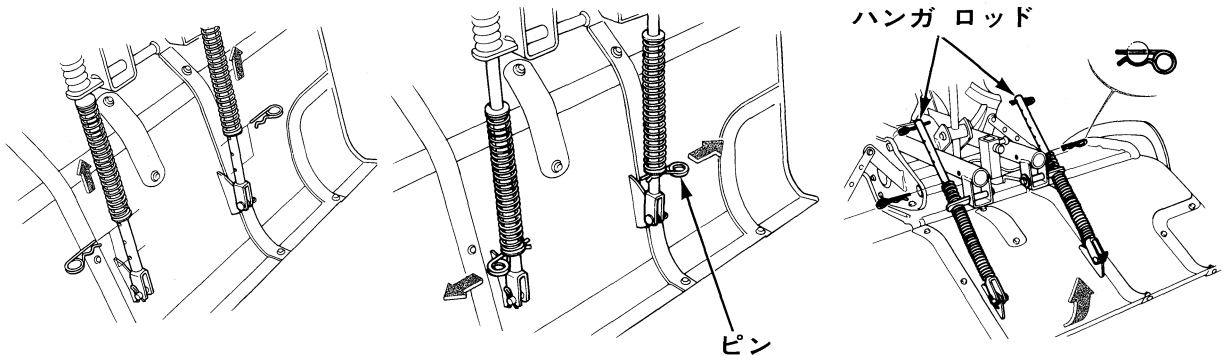
ロータリのリヤ カバーの加圧を調整するときに操作します。作業に応じてスプリングの調整を行なってください。

縮めたときは ……リヤ カバーが地面を強く押しつけます。
フリーのときは ……リヤ カバーの自重で地面を押しつけます。

○通常の圃場のときは、リヤ カバーが軽く地面に接触するように、スプリングをフリーにするか、少し加圧してください。畑作圃場のときは、スプリングを加圧すると仕上りは良くなります。

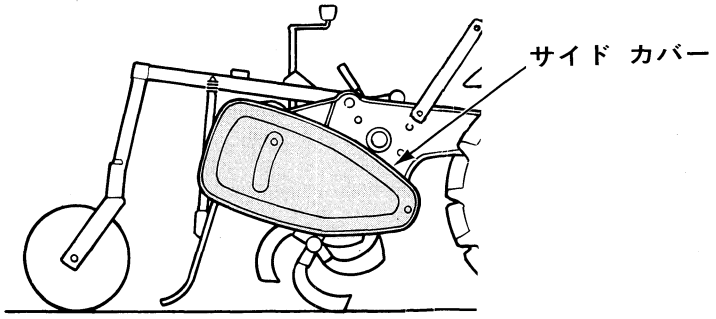
○石の多い圃場、湿田および粘土質圃場のときは、ハンガ ロッドの下側ピンを外して、リヤ カバーを持ち上げて、上側のピンを上から４～７つ目の穴に入れてください。

（縮めたとき）　（フリーのとき）　（持ち上げたとき）



3．サイド カバー

作業する圃場および深さに応じてカバーを上下させる事ができます。

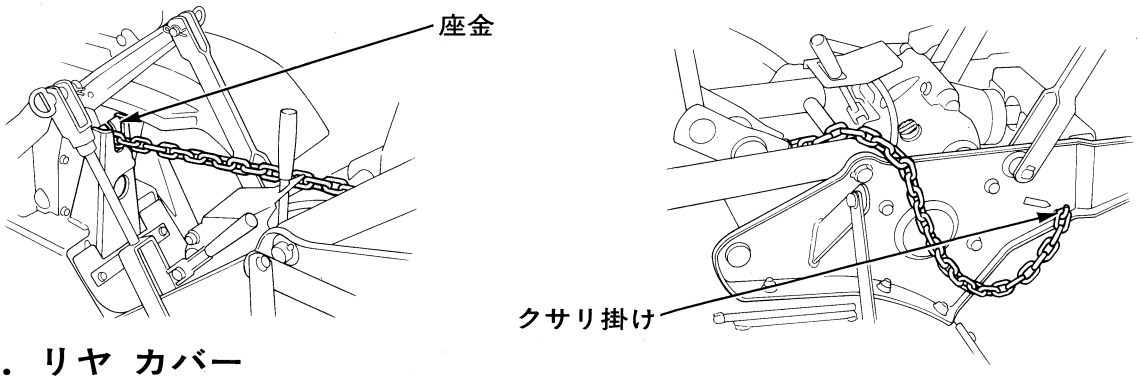


4．クサリ

ロータリの落下防止のために付いています。

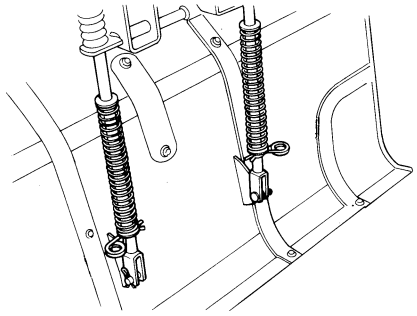
移動やロータリ点検時は、ロータリを上昇させクサリを座金に引っかけてください。

通常使用のときは、クサリ掛けに引っかけておいてください。



5．リヤ カバー

後部への土や、石はね防止と整地のために付いています。

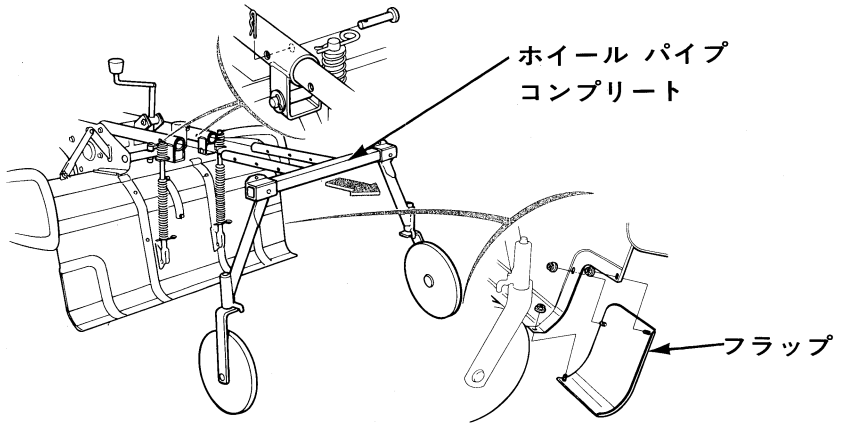


6．ホイール パイプ コンプリート

一般耕うん、整地作業のときは後方に移動してください。

注意

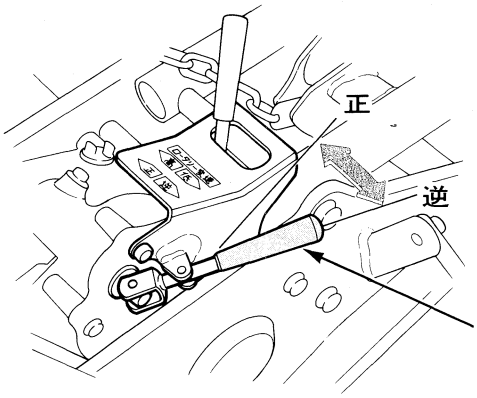
・尾輪を移動するときは、耕深調整ハンドルを回わし尾輪を浮かしてから行なってください。
・尾輪がリヤ カバーに当たるときは、左右のフラップを外してください。



7．ロータリ正、逆切換えレバー(正転、逆転)

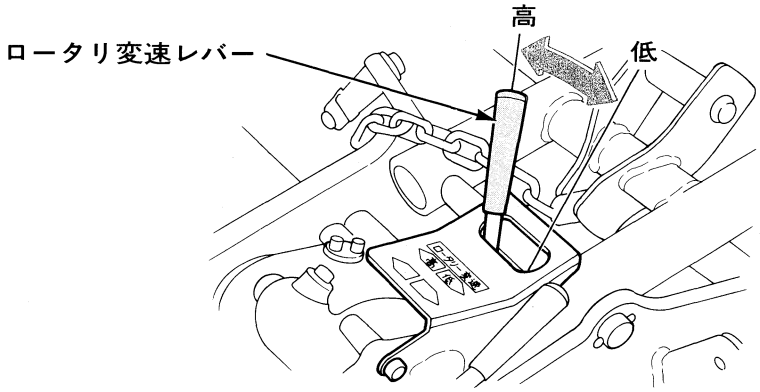
レバーを操作することにより〝正〟、〝逆転〟ができます。

注意　・逆転を使用するときは、64頁に従がい爪軸左、右の入れ換えを行なってください。



8．ロータリ変速レバー(高速、低速)

P.T.O変速レバーとの組み合わせにより4段階の変速を行なう事ができます。



◉主なロータリ作業と爪軸回転数

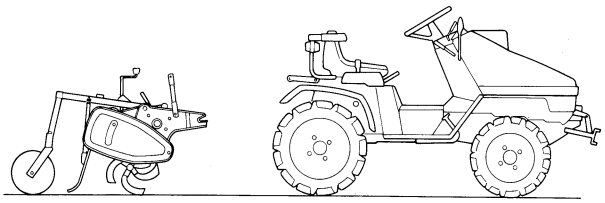
- 作業目的と圃場に合わせて爪軸回転を選んでください。
- この表は作業の目安としてください。

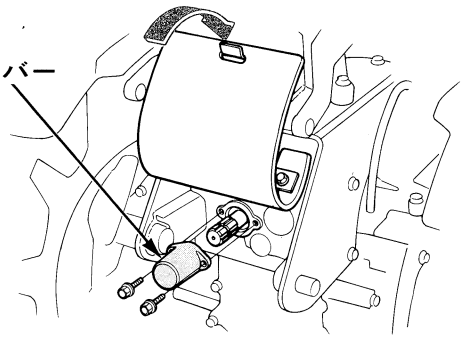
PTO変速	ロータリ変速	爪回転数(RPM)	作　　業
低	低	138	砂質土壌荒起こし
	高	188	一般乾田荒起こし、畑耕うん、畝立
高	低	255	均平、砕土耕うん、代掻
	高	348	砕土、耕うん(畑地)

ロータリの取付け・取外し

取付けかた

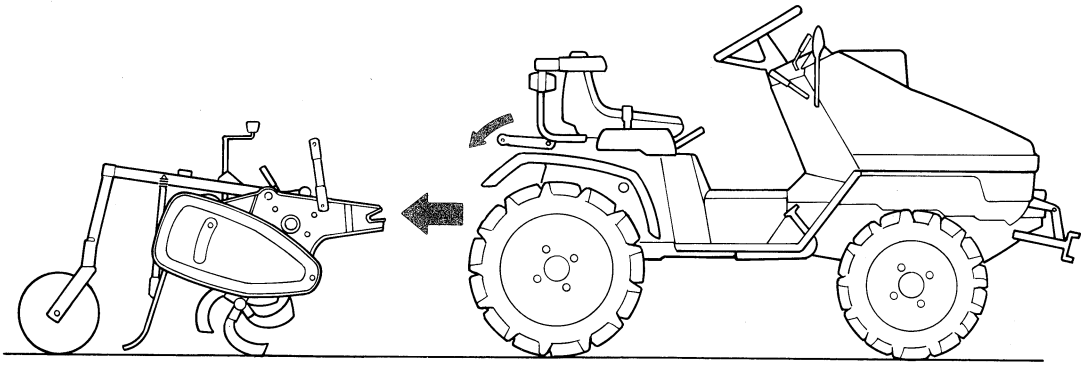
1．本機およびロータリを平坦な場所に置いてください。
P.T.O軸カバーを取外してください。



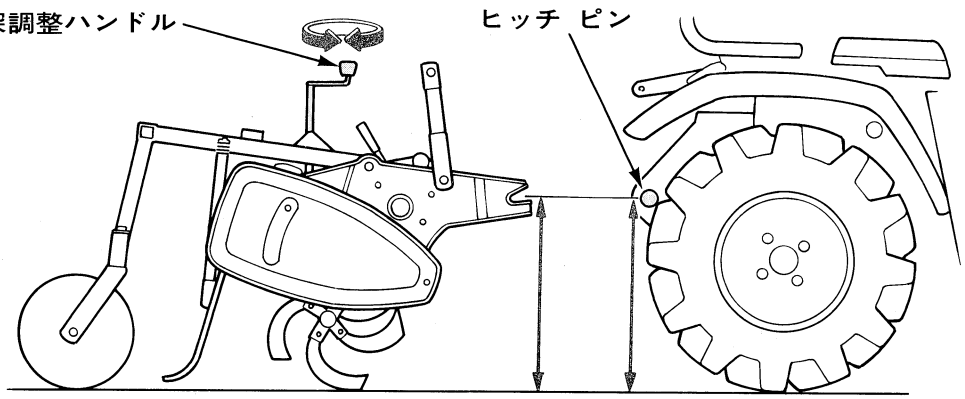


2．本機をロータリ取付部近くまで後進させて、駐車ブレーキをかけてください。油圧リフト レバーを〝**下降**〟にしてリフト アームを下げてください。

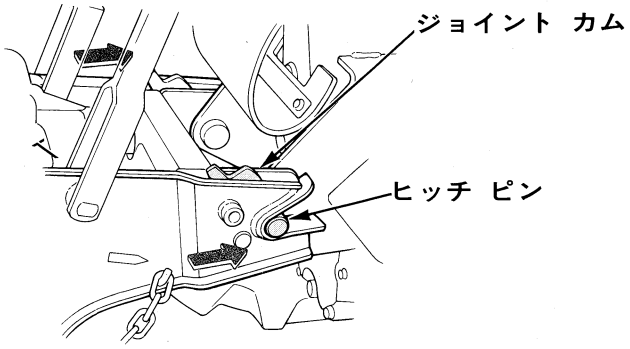
注意 本機から降りるときは必ずエンジンを停止してください。



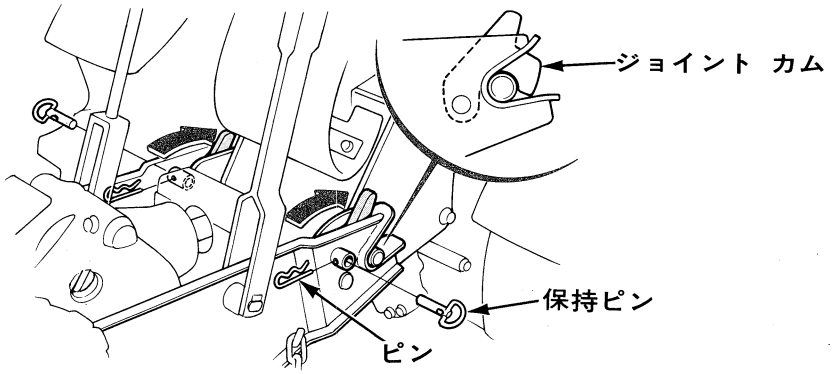
3．ロータリの耕深調整ハンドルを回わして、ワンチャック ヒッチ部を本機のヒッチ ピン高さに合わせてください。



4．本機を低速でジョイント カムがヒッチ ピンにかかるまでゆっくり後進して、エンジンを止めてください。

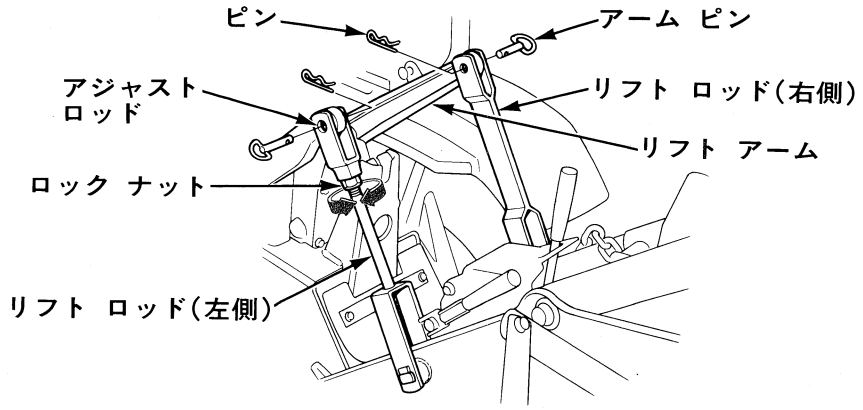


5．ジョイント カムを手で押してヒッチ ピンにロックさせ、保持ピンを穴に入れピンで完全にロックしてください。



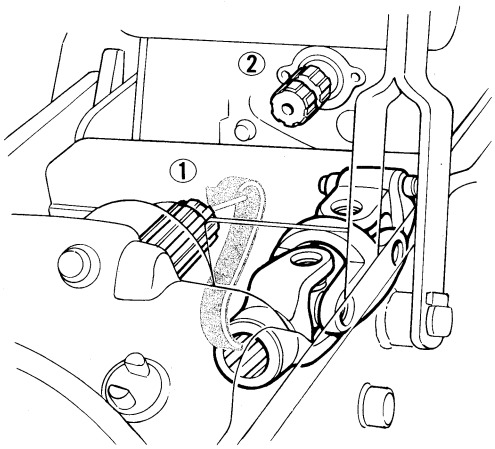
6．リフト アームと油圧リフト ロッドをアームピンで取付け、ピンで完全にロックしてください。

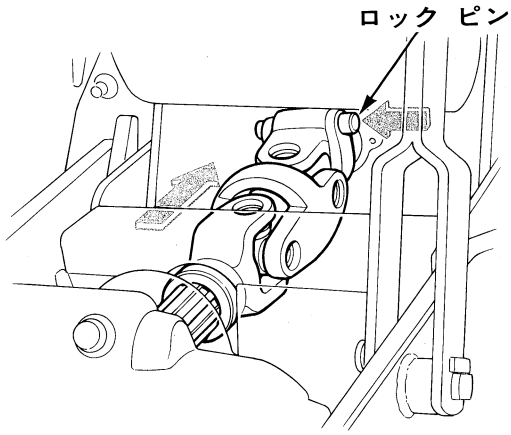
先に右側を取付けて、次に左側を取付けます。もし取付け穴が合わないときは、ロック ナットをゆるめアジャスト ロッドを回わして調整してください。調整後、ねじれがないようにして、ロック ナットを確実に締付けてください。



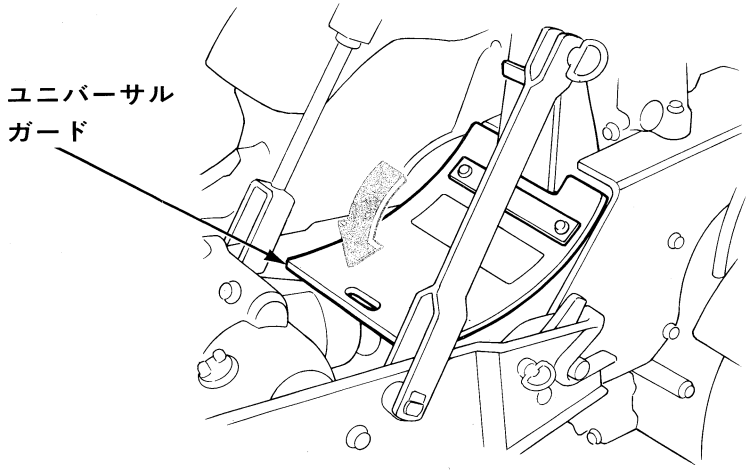
7．ユニバーサル ジョイントを先にロータリ側①へ押し込み次にP.T.Oシャフト②にロック ピンを押しながら入れてください。

注意
・ユニバーサル ジョイントを差し込む前に薄くグリースを塗布してください。
・ユニバーサル ジョイント差し込み後、確実にピンでロックされているか軽く手で引いてください。



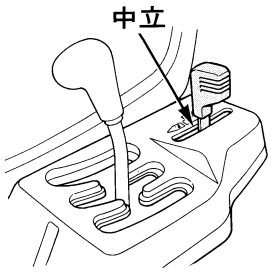


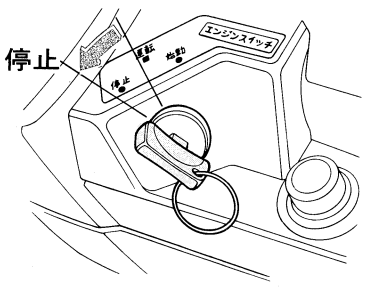
8．ユニバーサル ガードを下げてください。

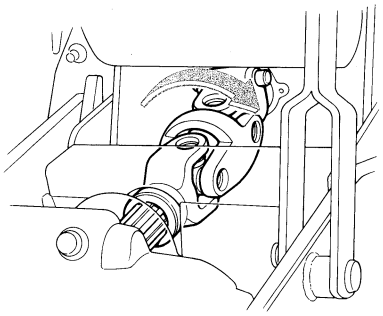


取付け後の作動確認

1．ロータリを上昇させて、クサリをセットして、エンジンを停止させてから、P.T.O軸変速レバーを中立にして、ユニバーサル ジョイントが手で軽く回わるか確認してください。

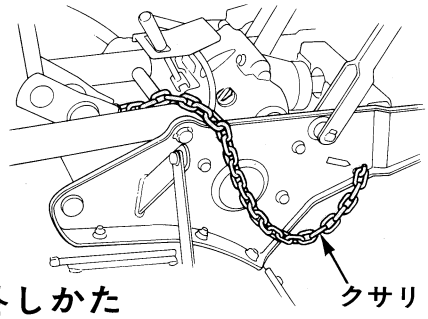


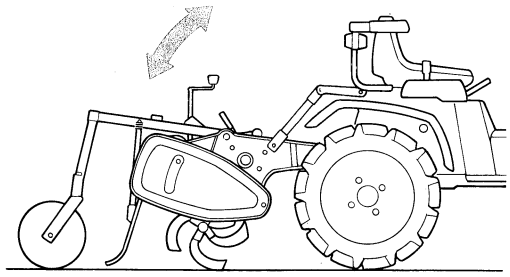




2．クサリを外しロータリの所定の位置にかけてから、ロータリを上昇、下降させて作動を確認してください。

注意 ・作動確認を行なうときは、周囲に人がいない事を必ず確認してから安全に注意して行なってください。

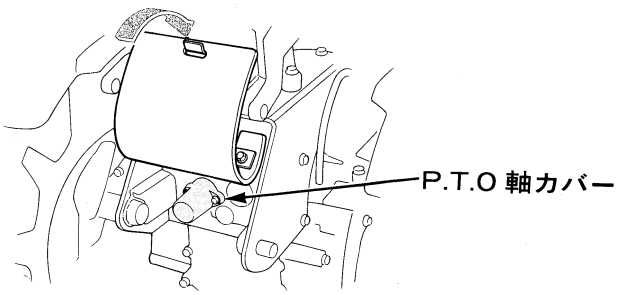




取外しかた

取外しは、取付けの逆の方法で行なってください。

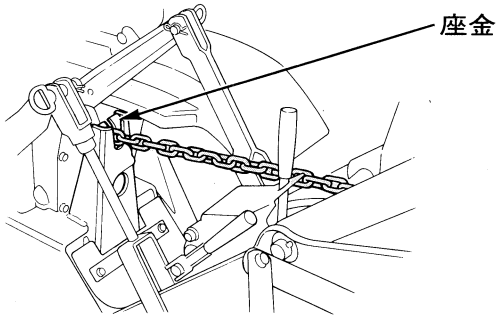
注意 ・ロータリを取外したときは必ずユニバーサル ジョイントも外してください。またP.T.O軸を使用しないときは必ずカバーを取付けてください。



運転する前に点検しましょう

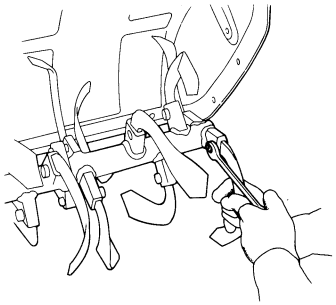
注意

・ロータリ爪の点検を行なうときは、必ずクサリをたるみなく掛けてください。
・点検は平坦な場所で本機を水平にし、必ずエンジンを止め、キーを外してから行なってください。
・仕業点検は故障を未然に防ぐため、またロータリを長持ちさせるためにも必ず行なってください。



1．ロータリ爪の点検

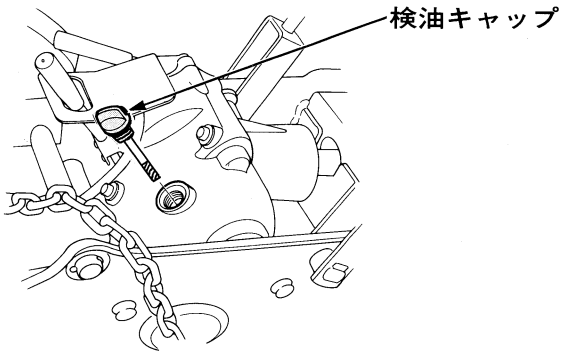
ロータリの爪の損傷、曲がり、ガタがないか確認してください。もし異常があったときは締付または交換してください。交換方法は63頁を参照してください。



2．ロータリ変速機オイルの点検

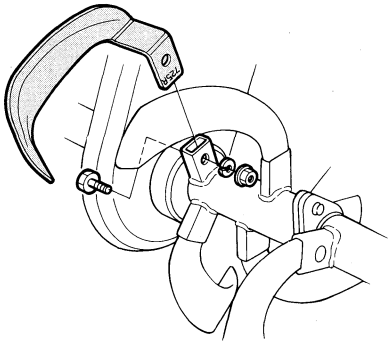
ロータリを水平面に降ろし検油キャップを外して、オイルがゲージの上限まで入っている事を確認してください。

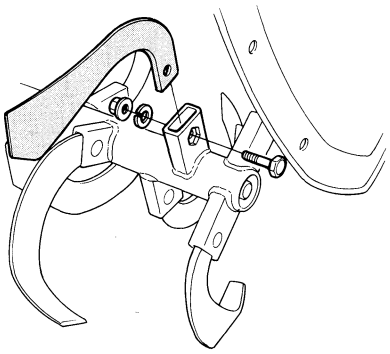
もし少ないときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。



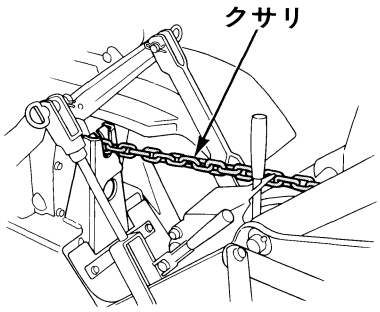
ロータリ爪の交換について

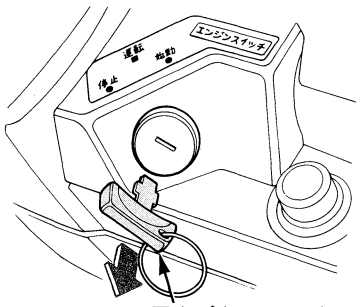
注意　爪を交換するときは必ず丈夫な手袋をして行なってください。

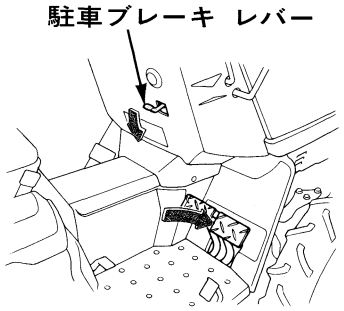




注意　爪を交換するときは、本機を平坦な場所に置き、ロータリを上昇させてクサリを掛けて、エンジンを停止させキーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行なってください。

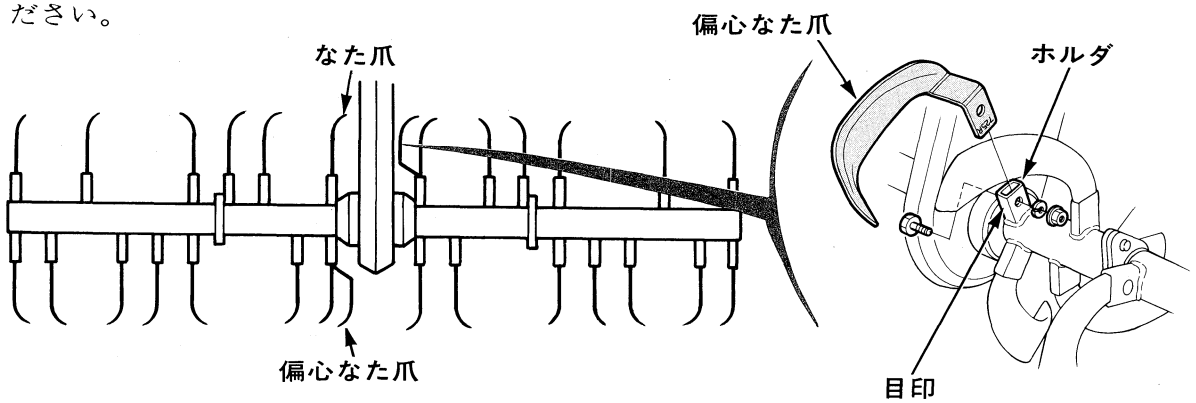






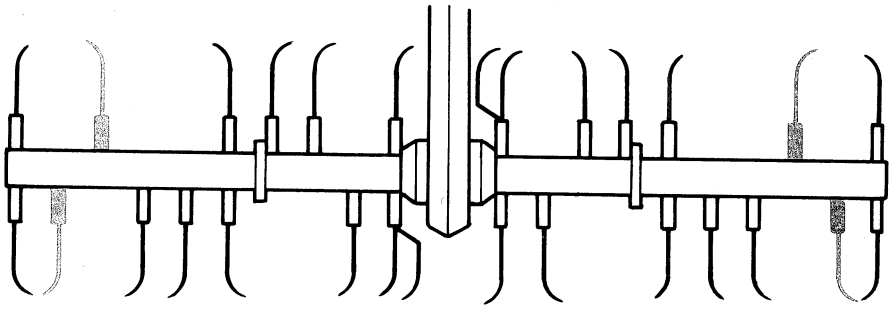
正転普通耕うんのときは

いちばん内側の爪ホルダで、目印のある所に偏心なた爪を左右１本ずつ、曲がり方向が外を向くように取付け、次のホルダになた爪を曲がり方向が内を向くように取付けてください。



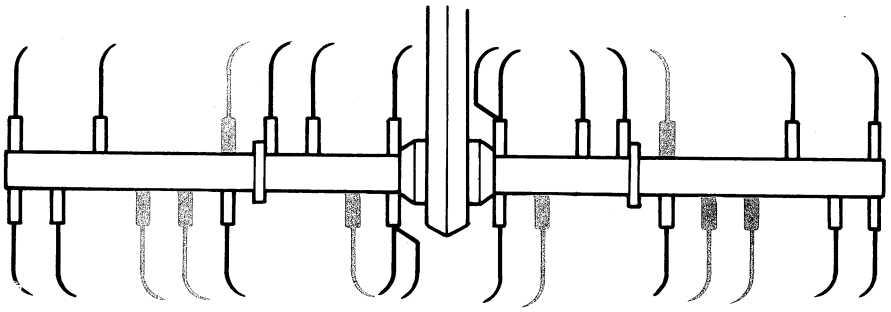
正転外盛耕うんのときは

正転普通耕うん時の外から3、4番目の内向きの爪を左右入れかえて下記のようにしてください。



正転内盛耕うんのときは

正転普通耕うん時の外から5、6、7、11番目の外向きの爪を左右入れかえて下記のようにしてください。

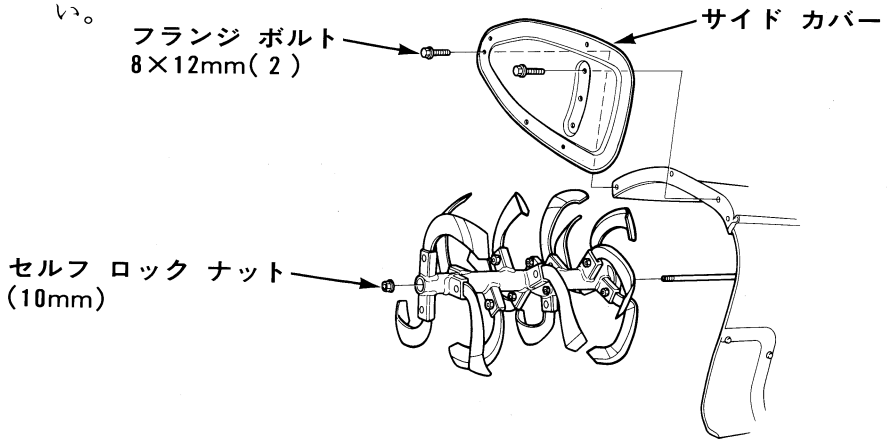


逆転普通耕うんのときは

1．サイド カバー左右を外してください。

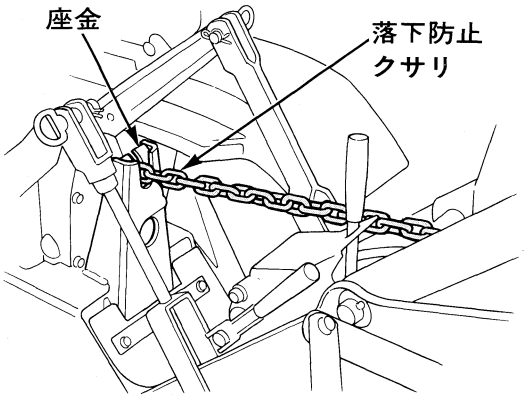
2．爪軸のセルフ ロック ナットを外して、左、右のシャフトを入れ変えてください。

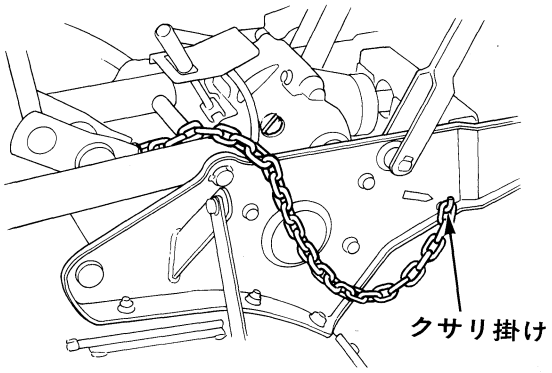
3．入れ変え後セルフ ロック ナットを確実に締付け、サイド カバーを取付けてください。



クサリ

ロータリを上げて移動するときには、下降防止のため必ずロータリを上げてたるみなくクサリを座金にセットしてください。座金からクサリを外したときはロータリのクサリ掛けに必ず引っ掛けてください。





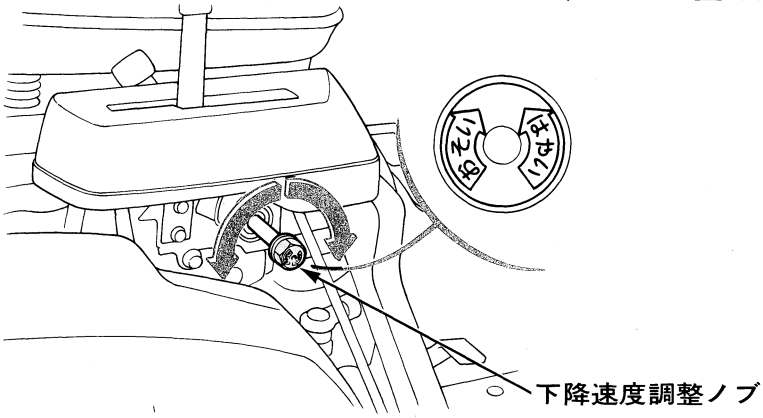
下降速度調整ノブ

このノブを回わすことにより作業機の下降速度を調整することができます(上昇速度は調整できません)。

〝おそい〞(右方向)に回わすと……下降速度が遅くなります。

〝はやい〞(左方向)に回わすと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回わすと……下降しなくなります。(点検、調整時使用します)



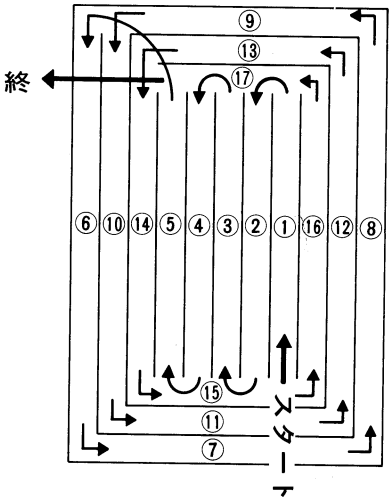
注意

- 調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- 下降速度は作業機の重量によってかわります。
- 作業機の下降速度は、最上位位置から接地するまで2～3秒が適当です。
- 調整ノブは一気にゆるめないでください。¼回転ごとに確認してください。
- 調整ノブが手で回らないときは、同梱のプラグ レンチを使って回してください。
- 作業機を点検調整する場合には、作業機の下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝おそい〞(右方向)にいっぱいに締めてください。ロータリ等のクサリ付の作業機を装着する時は、クサリを併用してください。

耕うん方法について

・圃場の条件に合わせて車速、爪軸回転数を選んでください。下記方法は作業の目安としてください。

・耕うん方法…図のように順次片ブレーキを使い、信地旋回により隣接耕を行ない、枕地は回り耕で仕上げます。



・荒起こし……

・車速：低—[1]1、低—[3]2速、高—[2]1速が標準です。

・爪軸回転数：P.T.Oチェンジ低、ロータリ チェンジ高

・リア カバー調節ロッドに依り、リア カバーを耕起面から持上げ整地をしないで作業をします。

・作業深さ(耕深)は、耕深調整ハンドルにより、圃場必要耕深とします。

→耕深の目安：乾田 90～120mm、畑 150～180mm

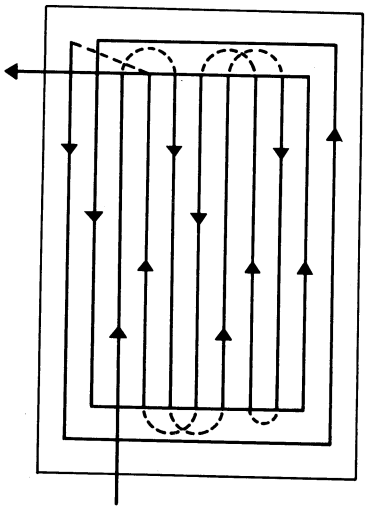
・普通耕うん、均平砕土

・車速：L—[1]1～H—[4]2速、H—[2]1速が標準

・爪軸回転数：P.T.Oチェンジ高、ロータリ チェンジ低

・ハンガー ロッドのスプリングによりリア カバーが耕起面を押し、整地を行ないます。

・耕深の調整は荒耕こしと同様です。



・代掻作業……

・車速：L—[3]2～H—[6]3速、H—[4]2速が標準です。

・爪軸回転数：P.T.Oチェンジ高、ロータリ チェンジ低

・代掻、旋回方法は、右図の一畦おき代掻が一般的です。各圃場に合った方法で作業を行なってください。

主　要　諸　元

ロータリ仕様	駆動方式：センタ ドライブ 装着方式：２点リンク直装 耕　　巾：1000mm 爪 本 数：28本(標準)	爪回転数	正逆転共	1　138rpm 2　188rpm 3　255rpm 4　348rpm

諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

メ　　モ

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買上げいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30752030
00X30-752-0300

Ⓝ509202